

## メタラキシール及びメフェノキサム（案）

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたこと及び関連企業から「国外で使用される農薬等に係る残留基準設定及び改正に関する指針について」に基づく残留基準の設定要請がなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

### 1. 概要

(1) 品目名：メタラキシール [Metalaxyl (ISO)] 及びメタラキシール M [Metalaxyl-M (ISO)]  
「メフェノキサム」は、メタラキシール M の別名である。本報告書中では ISO 名に従って「メタラキシール M」で統一している。

(2) 用途：殺菌剤

メタラキシール及びメタラキシール M はフェニルアミド系殺菌剤であり、菌糸伸長及び胞子形成を阻害することで、殺菌効果を示すと考えられている。

(3) 化学名及び CAS 番号

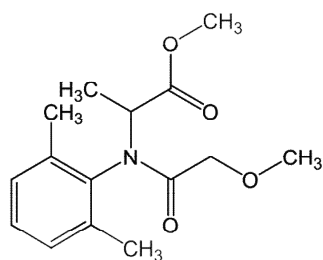
#### メタラキシール

Methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(2-methoxyacetyl)alaninate (IUPAC)  
Alanine, *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(2-methoxyacetyl)-, methyl ester  
(CAS : No. 57837-19-1)

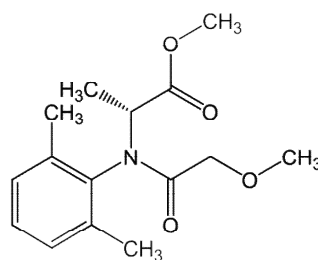
#### メタラキシール M

Methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(2-methoxyacetyl)-D-alaninate (IUPAC)  
D-Alanine, *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(2-methoxyacetyl)-, methyl ester  
(CAS : No. 70630-17-0)

(4) 構造式及び物性



メタラキシル  
(鏡像異性体 D 体:L 体 = 1:1)



メタラキシル M  
(D 体)

分子式  $C_{15}H_{21}NO_4$   
 分子量 279.33  
 水溶解度 8.4 g/L (22°C)  
 分配係数  $\log_{10}Pow = 1.75$  (25°C)

分子式  $C_{15}H_{21}NO_4$   
 分子量 279.33  
 水溶解度 26 g/L (25°C)  
 分配係数  $\log_{10}Pow = 1.71$

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用法は以下のとおり。

**使用時期**となっているものについては、今回農薬取締法(昭和23年法律第82号)に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

また、にんにくについてインポートトレランス申請がなされている。

(1) 国内での使用方法

メタラキシル製剤

① 8.0%メタラキシル・75.6%塩基性塩化銅水和剤

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	メタラキシル及 びメタラキシル Mを含む農薬の 総使用回数
みかん	褐色腐敗病	750 倍	200~ 700 L/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	疫病	400~ 600 倍	100~ 300 L/10 a	収穫前日ま で	3 回 以内		3 回以内
トマト					4 回 以内		5 回以内 (種子へ の処理は 1 回以 内、は種後は 4 回以内)
ミニトマト				3 回 以内	4 回以内 (種子へ の処理は 1 回以 内、は種後は 3 回以内)		
かぼちゃ	収穫 14 日前ま で						
きゅうり	べと病	800 倍		収穫前日ま まで	3 回 以内		4 回以内 (種子へ の処理は 1 回以 内、は種後は 3 回以内)
すいか	褐色腐敗病 果実汚斑細 菌病			収穫 7 日前ま で			
メロン	べと病			400~ 600 倍			
たまねぎ							

① 8.0%メタラキシル・75.6%塩基性塩化銅水和剤 (つづき)

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	メタラキシル及 びメタラキシル Mを含む農薬の 総使用回数
ひろしまな	白さび病	600～ 800 倍	100～ 300 L/10 a	収穫7日前ま で	3回 以内	散布	4回以内(種子へ の処理は1回以 内、は種後は3 回以内)
みつば	べと病	800 倍		収穫14日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	1回		2回以内(種子へ の処理は1回以 内、は種後は1 回以内)
うど	疫病		—	伏込時 ただし、収穫 25日前まで		根株瞬間 浸漬	1回

② 4.0%メタラキシル・30.0%ヒドロキシイソキサゾール液剤

作物名	適用	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	メタラキシル 及びメタラキ シルMを含む 農薬の総使用 回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の発根 及び 活着促進	500～ 1000 倍	は種時 又は 発芽後	1回	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り希釈液 500 mLを土壌灌 注する。	4回以内 (移植前の土壌 混和は1回以 内、育苗箱へ の灌注は1回 以内、本田で は2回以内)
		1000 倍	は種時		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り希釈液 1 Lを土壌灌注 する。	

③ 2.0%メタラキシル粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数	
稲	黄化萎縮病	6 kg/10 a	収穫90日前まで	2回以内	散布	4回以内(種もみへの処理は1回以内、移植前の土壌混和は1回以内、育苗箱への灌注は1回以内、本田では2回以内)	
みょうが(花穂)	根茎腐敗病	10~20 kg/10 a	収穫30日前まで		土壌表面散布	2回以内	
みょうが(茎葉)			みょうが(花穂)の収穫30日前まで ただし、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで				
しょうが			収穫30日前まで		3回以内	定植前作条土壌混和又は生育期土壌表面散布	3回以内
葉しょうが	収穫21日前まで						
ホップ	べと病	10~20 g/株	株ごしらえ時~選芽期	1回	株元土壌混和又は土壌表面散布	1回	
たらのき	立枯疫病	20 kg/10 a	収穫終了後(苗の場合は植付後)~梅雨期	2回以内	土壌表面散布	2回以内	
いちご	疫病	10 kg/10 a	定植時	1回	作条土壌混和	5回以内(種子への処理は1回以内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混和は1回以内)	
こんにゃく	根腐病		15 kg/10 a		植付時		全面土壌混和
			5~10 kg/10 a				植溝土壌混和
		5 kg/10 a	培土時				
オクラ	疫病	10 kg/10 a	収穫前日まで	3回以内	株元散布	5回以内(種子への処理は1回以内、は種前の土壌混和は1回以内、は種後は3回以内)	
ピーマン		2~3 g/株					
パセリ		10~20 kg/10 a					
せり	葉腐病	6 kg/10 a	収穫21日前まで	1回	散布	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)	

③ 2.0%メタラキシル粒剤 (つづき)

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	べと病	9 kg/10 a	は種時	1回	全面土壌混和	2回以内 (種子への処理は1回以内、は種時は1回以内)
こまつな	白さび病	10 kg/10 a	は種前 ただし、収穫 21日前まで			2回以内 (種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)
チンゲンサイ		9 kg/10 a	は種時又は定植時			
みずな		10 kg/10 a	は種時			
かぶ		9 kg/10 a				
だいこん		6 kg/10 a	定植時		作条土壌混和	
タアサイ			全面土壌混和			
くわい	茎腐病	6 kg/10 a	収穫21日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内

④ 1.5%メタラキシル・1.5%フルトラニル粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	根腐病	5 kg/10 a	培土時 (ただし、収穫30日前まで)	1回	株元散布 (散布後土寄せ)	1回
		5~10 kg/10 a	植付時		植溝土壌混和	
		20 kg/10 a			全面土壌混和	
	白絹病	5 kg/10 a	培土時 (ただし、収穫30日前まで)		株元散布 (散布後土寄せ)	
		20 kg/10 a	植付時		全面土壌混和	

⑤ 0.50%メタラキシル・4.0%ヒドロキシイソキサゾール粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌)	置床 1 m <sup>2</sup> 当り 50 g	緑化 始期	1回	置床表土に 均一に混和	4回以内(移植 前の土壌混和 は1回以内、 育苗箱への灌 注は1回以内、 本田では2回 以内)
	苗立枯病 (フザリウム菌) 根の生育促進 ムレ苗防止	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約5 L) 1箱当 り6~8 g	は種前		育苗箱土壌 に均一に 混和	
稲 (湛水直播)	根の生育促進による 苗立の安定	乾籾重量の3%			過酸化カル シウム剤に 添加して種 籾に粉衣す る。	3回以内(種も みへの処理は 1回以内、本田 では2回以内)
さとうきび	根腐病	5 kg/10 a	植付時		植溝土壌 混和	1回

メタラキシルM製剤

⑥ 31.0%メタラキシルM液剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
野菜類 (ほうれんそう を除く)	ピシウム菌による病 害(苗立枯病等)	乾燥種子 1 kg 当り 1.78 mL 原液	は種前	1回	種子処理 機による 塗沫処理	1回
ほうれんそう		乾燥種子 1 kg 当り 1.07~ 1.78 mL 原液				2回以内(種子 への処理は1回 以内、は種時は 1回以内)
直播水稻	苗腐病 (ピシウム菌)	乾燥種もみ 1 kg 当たり原液 5 mL				種子吹き 付け処理 又は塗沫 処理

⑦ 3.8%メタラキシルM・64.0%マンゼブ水和剤

作物名	適用	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	メタラキシル及びメ タラキシルMを含む 農薬の総使用回数	
ばれいしょ	疫病	500～ 1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 30 日前 まで	1 回	散布	3 回以内	
トマト		1000 倍		収穫前日ま で	2 回以内		5 回以内（種子への 処理は 1 回以内、は 種後は 4 回以内）	
キャベツ	べと病			収穫 30 日前 まで	3 回以内		4 回以内（種子への 処理は 1 回以内、は 種後は 3 回以内）	
きゅうり				収穫前日ま で				
メロン		収穫 7 日前 まで						
ぶどう	褐色腐敗病	1000 倍		200～700 L/10 a	収穫 45 日前 まで		2 回以内	2 回以内
みかん					べと病			
はくさい	ピシウム腐敗病	500 倍		100～300 L/10 a	収穫 30 日前 まで		1 回	4 回以内（種子への 処理は 1 回以内、は 種後は 3 回以内）
かぼちゃ	疫病				2 回以内			
たまねぎ	べと病							
	あずき		白色疫病		収穫 7 日前 まで			
だいず	茎疫病	1000 倍	200～400 L/10 a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	4 回以内（種子粉衣 は 1 回以内、は種後 は 3 回以内）		
すいか	褐色腐敗病			収穫 45 日前 まで		4 回以内（種子粉衣 及びは種前の塗沫処 理は合計 1 回以内、 は種後は 3 回以内）		
				収穫 7 日前 まで		4 回以内（種子への 処理は 1 回以内、は 種後は 3 回以内）		
わさびだい こん	白さび病	1000 倍	50 mL/株 (200～ 400 L/10 a)	収穫 14 日前 まで	3 回以内	5 回以内（種子への 処理は 1 回以内、育 苗期は 3 回以内、定 植時の土壌混和は 1 回以内）		
いちご	疫病			育苗期				
ねぎ	べと病					100～300 L/10 a	収穫 30 日 前まで	5 回以内（種子への 処理は 1 回以内、土 壌混和は 1 回以内、 散布は 3 回以内）

⑧ 3.3%メタラキシルM・32.0%TPNフロアブル

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の総使用 回数					
ぶどう	べと病	1500倍	200～700 L/10 a	収穫60日前 まで	2回以内	散布	2回以内					
ばれいしょ	疫病	500～ 1000倍		収穫7日 前まで	3回以内		3回以内					
トマト	葉かび病	800倍		収穫前日 まで	4回以内		5回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は4回以内)					
	疫病	800～ 1000倍		収穫7日 前まで	2回以内							
ミニトマト												
なす	褐色腐敗病	800倍		収穫前日 まで	3回以内		4回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は3回以内)					
	うどんこ病 すすかび病											
かぼちゃ	疫病	1000倍		収穫7日 前まで	3回以内							
	べと病											
きゅうり	うどんこ病 褐斑病	800倍		収穫前日 まで				3回以内				
	べと病	800～ 1000 倍										
メロン	うどんこ病	800倍		収穫3日 前まで					3回以内			
	つる枯病											
すいか	炭疽病	800～		収穫7日 前まで						3回以内		
	褐色腐敗病											
たまねぎ	べと病	1000倍		収穫7日 前まで							3回以内	
	灰色かび病	800倍										
	白色疫病											
ねぎ	べと病	800～ 1000倍	収穫14日 前まで			2回以内						5回以内(種子へ の処理は1回以 内、土壌混和は1 回以内、散布は3 回以内)
わけぎ												3回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は2回以内)



⑧ 3.3%メタラキシルM・32.0%TPN フロアブル (つづき)

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の総使用 回数	
キャベツ	べと病	800～ 1000倍	100～400 L/10 a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)	
	はくさい	ピシウム腐 敗病		1000 倍				収穫 7 日 前まで
白さび病		800～ 1000 倍						
レタス	べと病			800 倍				収穫 14 日 前まで
リーフレタス		1000 倍		収穫 21 日 前まで	2 回以内			3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 2 回以内)
ブロッコリー				出蕾前 ただし、 収穫 21 日 前まで				4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)
アスパラガス	疫病	1000 倍		収穫前 日まで	3 回以内		3 回以内	
らっきょう	白色疫病	収穫 14 日 前まで						

⑨ 2.0%メタラキシルM・30.0%ヒドロキシイソキサゾール液剤

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	メタラキシ ル及びメタ ラキシルM を含む農薬 の総使用回 数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌) 苗立枯病 (ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の活着促進	500～ 1000 倍	育苗箱 (30× 60×3 cm、使 用土壌約 5 L) 1 箱当たり 500 mL	は種時 又は 発芽後	1 回	土壌 灌注	4 回以内 (移 植前の土壌 混和は 1 回 以内、育苗 箱への灌注 は 1 回以内、 本田では 2 回以内)
		1000 倍	育苗箱 (30× 60×3 cm、使 用土壌約 5 L) 1 箱当たり 1 L	は種時			

⑨ 2.0%メタラキシルM・30.0%ヒドロキシイソキサゾール液剤（つづき）

作物名	適用	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	メタラキシル及 びメタラキシル Mを含む農薬の 総使用回数
稲 (湛水直播)	苗腐病 (ピシウム菌)	2.5～ 5倍	乾燥種 粃1kg 当たり 30mL	は種前	1回	鉄コーティング種 子に吹き付 け処理	3回以内(種もみ への処理は1回 以内、本田では2 回以内)

⑩ 1.7%メタラキシルM・22.6%チアメトキサム・1.1%フルジオキソニルフロアブル

作物名	適用又は使用目的	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の総使用 回数
いんげん まめ	苗立枯病(ピシウム菌) リゾクトニア根腐病 アブラムシ類 タネバエ	原液	乾燥種子 1kg当り 8mL	は種前	1回	塗沫 処理	1回
あずき	茎疫病 タネバエ アブラムシ類						4回以内 (種子粉衣及び は種前の塗沫処 理は合計1回以 内、は種後は3回 以内)
だいず	苗立枯病(ピシウム菌) 紫斑病 茎疫病 黒根腐病						1回
えだまめ	リゾクトニア根腐病 アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ ハト、キジバトによる種 子食害忌避						

⑪ 1.0%メタラキシルM・2.0%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	18 kg/10 a	みょうが(花穂)の収穫30日前まで、ただし、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで	2回以内	土壌表面散布	2回以内
みょうが (花穂)			収穫30日前まで	3回以内	定植前作条土壌混和又は生育期土壌表面散布	3回以内
しょうが					土壌表面散布	
いもち病			葉しょうが	根茎腐敗病	収穫21日前まで	
ホップ	べと病	10~20 g/株	株ごしらえ時~選芽期	1回		1回
ピーマン	疫病	3 g/株	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
とうがらし類 (ししとうを除く)				1回		1回
ししとう		3 g/株	収穫前日まで	3回以内		4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
パセリ		12 kg/10 a	収穫21日前まで			
かぶ こまつな	白さび病	9 kg/10 a	は種時	1回	全面土壌混和	2回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)
チンゲンサイ タアサイ			定植時			
みずな			は種時 又は定植時			
だいこん		6~9 kg/10 a				
ほうれんそう	べと病	9 kg/10 a	は種時			2回以内(種子への処理は1回以内、は種時は1回以内)

⑪ 1.0%メタラキシルM・2.0%アゾキシストロビン粒剤（つづき）

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	根腐病	9 kg/10 a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
			培土時		株元散布	
ねぎ	白絹病		土寄せ時 ただし、収穫 90日前まで		株元土壌混和	5回以内（種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内）
ごぼう	黒あざ病	18 kg/10 a	は種前		作条土壌混和	1回
にんじん	しみ腐病	9~18 kg/10 a	は種前		全面土壌混和	2回以内（種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内）
べにばないんげん	茎根腐病	1 g/株	定植時		株元散布	1回
せり	葉腐病	3 kg/10 a	収穫21日前まで		湛水散布	2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内）
くわい	茎腐病			2回以内		
オクラ	苗立枯病	9~18 kg/10 a	は種前	1回	全面土壌混和	5回以内（種子への処理は1回以内、は種前の土壌混和は1回以内、は種後は3回以内）
	疫病	9 kg/10 a	収穫前日まで	3回以内	株元散布	
たらのき	立枯疫病	20 kg/10 a	収穫終了後（苗の場合は植付後）～落葉前 ただし、収穫 60日前まで	2回以内	土壌表面散布	2回以内

⑫ 0.25%メタラキシルM・4.0%ヒドロキシイソキサゾール粉剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ピシウム菌) 苗立枯病 (フザリウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 6~8 g	は種前	1回	育苗箱土壌に均一に混和	4回以内 (移植前の土壌混和は1回以内、育苗箱への灌注は1回以内、本田では2回以内)
稲 (湛水直播)	根の生育促進による 苗立の安定	乾粒重量の3%			過酸化カルシウム剤に添加して種粒に粉衣する。	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、本田では2回以内)
さとうきび	根腐病	5 kg/10 a	植付時		植溝土壌混和	1回

(2) 海外での使用方法

① メタラキシル及びメタラキシルM製剤 (EU)

作物名	1回当り使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
レモン オレンジ マンダリン (Citrus fruit)	1 g ai/m <sup>2</sup>	2回	2 g ai/m <sup>2</sup>	生育始期 収穫 15~30 日 前まで	土壌処理 (株元散布)
	1 g ai/樹		2 g ai/樹		土壌処理 (株元点滴か ん水)
	3.5 g ai/樹		7 g ai/樹	収穫 30 日前まで	茎葉散布
	0.35 g ai/樹		0.7 g ai/樹	収穫 15 日前まで	
りんご なし (pome fruit)	1 g ai/m <sup>2</sup>	2回	2 g ai/m <sup>2</sup>	秋期又は 3月の生育初期 収穫 15~28 日 前まで	収穫 30 日 前 まで
	1 g ai/樹		2 g ai/樹	秋期又は3月 収穫 15~28 日 前まで	土壌処理 (株元点滴か ん水)

ai : active ingredient (有効成分)

② メタラキシル製剤(米国)

作物名	1回当り使用量	本剤の使用回数	栽培期間中の総使用量	使用時期	使用方法
小豆類 (インゲン、あずき、レンズ)、エンドウ、その他の豆類 (リマ、スナップ他)	0.5 lb ai/acre	1回	0.5 lb ai/acre	栽培前又は播種時	全面土壌散布又は帯状土壌散布
ばれいしょ	0.188 lb ai/acre	2回	0.588 lb ai/acre	種いも播種時	畝間処理
	0.40 lb ai/acre			塊茎形成初期	茎葉処理
かんしょやまいも	1.0 lb ai/acre	1回	1.0 lb ai/acre	栽培前又は種いも播種時	全面土壌散布又は帯状土壌散布
だいこん	1.0 lb ai/acre	1回	1.0 lb ai/acre	栽培前又は播種時	全面土壌散布又は帯状土壌散布
トマト	1.0 lb ai/acre	1回	2.0 lbs ai/acre	定植時	全面土壌散布又は帯状土壌散布
	0.5 lb ai/acre	2回		生育期 (定植4~6週間後、収穫4週間前まで)	土壌灌注
未成熟大豆	0.5 lb ai/acre	1回	0.5 lb ai/acre	栽培前又は播種時	全面土壌散布又は帯状土壌散布
高麗人参	0.375 lbs ai/acre	4回	1.5 lbs ai/acre	収穫9日前まで	土壌表面処理 (粒剤)
核果類 (アンズ、おうとう、ネクタリン、もも、うめ、すもも、プルーン)	2.0 lbs ai/acre	3回	6.0 lbs ai/acre	苗木は定植後2週間以降、成木は春期生育前	全面土壌散布又は帯状土壌散布
いちご	0.5 lb ai/acre	3回	1.5 lbs ai/acre	収穫当日まで	帯状土壌散布又は土壌灌注
ブルーベリー	1.8 lbs ai/acre	2回	3.6 lbs ai/acre	収穫当日まで	帯状土壌散布又は全面土壌散布
ナッツ類 (アーモンド、クルミ)	2.0 lbs ai/acre	3回	6.0 lbs ai/acre	苗木は定植後2週間以降、成木は春期生育前	株元に全面土壌散布又は帯状土壌散布

③ 49.0%メタラキシルM乳剤及び45.3%メタラキシルM液剤（米国）

作物名	メタラキシルMの使用量	使用時期	使用間隔	使用方法
豆類(未成熟及び乾燥)	0.25~0.50 lb ai/acre	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状) 土壌散布 (全面又は帯状)
豆類(未成熟)	0.063~0.1 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.5 lb ai/acre、 茎葉散布は0.4 lb ai/acreを 超えないこと)	収穫 3日前まで	—	茎葉散布
葉菜類* (あぶらな科を除く)	0.50~1.0 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb ai/acre、 茎葉散布は0.4 lb ai/acreを 超えないこと)	収穫 7日前まで	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状) 土壌散布 (全面又は帯状)
根菜・塊茎類**	0.50~1.0 lb ai/acre	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状) 土壌散布 (全面又は帯状)
高麗人参	0.375 lb ai/acre	—	1回/年	土壌灌注
にんじん	0.25~0.65 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 合計1.4 lbs ai/acre、 土壌処理は0.65 lb ai/acre、 茎葉散布は0.75 lb ai/acreを超えないこと)	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状) 土壌散布 (全面又は帯状)
	0.125~0.5 lb ai/acre (植付後処理は合計0.75 lb ai/acre かつ1回0.5 lb ai/acreを超えない こと、本剤を1作期で1.4 lbs ai/acre以上使用しないこと メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.65 lb ai/acre、 茎葉散布は0.75 lb ai/acre を超えないこと)	収穫 7日前まで	14~21 日	植付後処理 直接散布 (全面又は帯状)
レタス (結球及び非結球)	0.063~0.125 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb ai/acre、 茎葉散布は0.4 lb ai/acre を超えないこと)	収穫 7日前まで	—	茎葉散布 (地上又は空中)
ばれいしょ	0.013 lb ai/1000 row ft (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.34 lb ai/acre、 茎葉散布は0.40 lb ai/acre を超えないこと)	—	—	畝内散布

\* : 「しゅんぎく」、「その他のきく科野菜」及び「セロリ」を含む

\*\* : 「やまいも」を含む

③ 49.0%メタラキシルM乳剤及び45.3%メタラキシルM液剤（米国）（つづき）

作物名	メタラキシルMの使用量	使用時期	使用間隔	使用方法
てんさい	0.50～1.0 lb ai/acre	—	—	植付前土壌混和 (全面及び帯状) 土壌散布 (全面及び帯状)
ねぎ、鱗茎野菜類	0.25～0.50 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb ai/acre、 茎葉散布は0.50 lb ai/acre を超えないこと)	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状) 土壌散布 (全面又は帯状)
ブラックベリー(ボ イゼンベリーを含む) ・ラズベリー類	1.8 lbs ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として土 壌処理は1.8 lbs ai/acre、 茎葉散布は0.2 lb ai/acreを超えないこと)	—	—	土壌散布 (全面又は帯状)

④ 5.0%メタラキシルMフロアブル（米国）

作物名	メタラキシルMの使用量	使用時期	使用間隔	使用方法
さや付き豆(スナップ エンドウ)	0.1 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.5 lb ai/acre、 茎葉散布は0.2 lb ai/acreを超 えないこと)	収穫7 日前ま で	—	茎葉散布
ねぎ 鱗茎野菜類	0.1 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb ai/acre、 茎葉散布は0.4 lb ai/acreを超 えないこと)	収穫 10日 前まで	14日	茎葉散布
ブラックベリー(ボイ ゼンベリーを含む)・ ラズベリー類	0.1 lb ai/acre (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.8 lbs ai/acre、 茎葉散布は0.2 lb ai/acreを超 えないこと)	収穫 当日ま で	7日	茎葉散布

3. 作物残留試験

(1) 分析の概要

【国内】

① 分析対象の化合物

メタラキシル（メタラキシルMを含む）

② 分析法の概要

試料からアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、グラファイトカーボンカラム、フロリジルカラム、C18カラム等を用いて精製した後、高感度窒素・リン検出器付きガスクロマトグラフ（GC-NPD）又は液体クロマトグラフ・質量分析計（LC-MS）で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、酢酸エチルに転溶する。フロリジルカラム及



びグラファイトカーボンカラムを用いて精製した後、LC-MS で定量する。

あるいは、試料からアセトニトリルで抽出し、グラファイトカーボン/PSA 積層カラムを用いて精製した後、ガスクロマトグラフ・質量分析計 (GC-MS) で定量する。

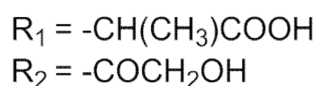
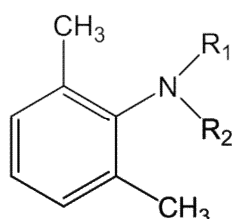
定量限界： 0.005～0.1 mg/kg

## 【海外】

### ① 分析対象の化合物

#### i) 米国

- ・メタラキシル (メタラキシル M を含む)
- ・加水分解により 2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物 (代表的な代謝物：2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸 (代謝物 D))



代表的な代謝物 (代謝物 D)

#### ii) EU

- ・メタラキシル (メタラキシル M を含む)

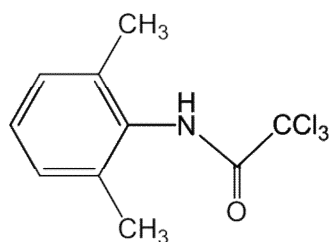
### ② 分析法の概要

#### i) メタラキシル (メタラキシル M を含む) 及び加水分解により 2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物

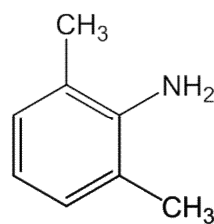
試料からメタノール・水 (1:4) 混液で抽出し、必要に応じてアセトニトリル/*n*-ヘキサン分配で脱脂する。塩化コバルト存在下リン酸溶液中で還流した後、塩基性として水蒸気蒸留により生成した 2,6-ジメチルアニリンを捕集する。トリクロロアセチルクロリドで誘導体化し、アルミナカラム又はアルミナカラム及びシリカゲルカラムを用いて精製した後、GC-NPD で定量する。

または、試料からメタノール・水 (1:4) 混液で抽出し、メタンスルホン酸を加えて還流した後、塩基性として水蒸気蒸留により生成した 2,6-ジメチルアニリンを捕集する。シリカゲルカラムを用いて精製した後、GC-NPD で定量する。

定量限界：0.02～0.05 mg/kg (メタラキシル換算濃度)



2,6-ジメチルアニリンのト  
リクロロアセチル誘導体



2,6-ジメチルアニリン

ii) メタラキシル (メタラキシル M を含む)

試料からメタノール・水 (1 : 4) 混液で抽出し、C<sub>18</sub> カラムを用いて精製し、ジクロロメタンに転溶する。シリカゲルカラムを用いて精製した後、LC-MS で定量する。

定量限界 : 0.02 mg/kg

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1 及び 1-2、海外で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-3 及び 1-4 を参照。

4. 魚介類への推定残留濃度

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、本剤の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup> 及び生物濃縮係数 (BCF : Bioconcentration Factor) から、以下のとおり魚介類中の推定残留濃度を算出した。

(1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田 PECTier2<sup>注2)</sup> 及び非水田 PECTier1<sup>注3)</sup> を算出したところ、水田 PECTier2 は 2.58 µg/L、非水田 PECTier1 は 0.0158 µg/L となったことから、水田 PECTier2 の 2.58 µg/L を採用した。

(2) 生物濃縮係数

本剤はオクタノール/水分配係数 ( $\log_{10}Pow$ ) が 1.75 であり、魚類濃縮性試験が実施されていないことから、BCF については実測値が得られていない。このため、 $\log_{10}Pow$  から、回帰式 ( $\log_{10}BCF = 0.80 \times \log_{10}Pow - 0.52$ ) を用いて 7.59 L/kg と算出された。

(3) 推定残留濃度

(1) 及び (2) の結果から、メタラキシルの水産動植物被害予測濃度 : 2.58 µg/L、

BCF : 7.59 L/kg とし、下記のとおり推定残留濃度を算出した。

$$\text{推定残留濃度} = 2.58 \mu\text{g/L} \times (7.59 \text{ L/kg} \times 5) = 97.9 \mu\text{g/kg} = 0.098 \text{ mg/kg}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出した

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出

(参考) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

## 5. 畜産物における推定残留濃度

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留濃度を算出した。

### (1) 飼料中の残留農薬濃度

飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和 51 年農林省令第 35 号）に定める飼料一般の成分規格等と飼料の最大給与割合等から、飼料の摂取によって家畜が暴露されうる飼料中の残留農薬濃度を算出した。

成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中に農薬が残留している場合を仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の最大飼料由来負荷(MDB)<sup>注)</sup>を算出したところ、乳牛において 12.8 ppm、肉牛において 7.8 ppm、採卵鶏において 0.73 ppm、肉用鶏において 0.63 ppm と推定された。

注) 最大飼料由来負荷 (Maximum Dietary Burden : MDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

### (2) 分析法の概要

#### ① 分析対象物質

- ・メタラキシル(メタラキシルMを含む)
- ・加水分解により 2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物

#### ② 分析法の概要

試料から乳はアセトニトリル、組織はアセトニトリル・水 (4 : 1) 混液、脂肪は *n*-ヘキサンで抽出する。アセトニトリル/*n*-ヘキサン分配で脱脂し、塩化コバルト存在下リン酸溶液中で還流する。塩基性として水蒸気蒸留より生成した 2,6-ジメチルアニリンを捕集し、トリクロロアセチルクロリドで誘導体化した後、アルミナカラム

又はアルミナカラム及びシリカゲルカラムを用いて精製した後、GC-NPDで定量する。

定量限界：0.01～0.1 mg/kg（メタラキシル換算濃度）

### （3）家畜残留試験（動物飼養試験）

#### ① 乳牛における残留試験

乳牛（ホルスタイン種、3～4頭/群）に対して、1.5, 7.5, 15.0 ppmのメタラキシルを含む飼料を28日間（1.5及び15.0 ppm投与群）または40日間（7.5 ppm投与群）にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳汁に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリンに分解し、トリクロロアセチル誘導体とし、GC-NPDで測定した。結果は表1参照。

表1. 乳牛の組織中の残留濃度(mg/kg)

	1.5 ppm 投与群	7.5 ppm 投与群	15.0 ppm 投与群
筋肉（腰）	—	<0.05	<0.05
筋肉（肢）	—	<0.05	<0.05
脂肪（腎周囲）	—	<0.05	<0.05
脂肪（大網）	—	<0.05	<0.05
肝臓	<0.1	0.21	0.20
腎臓	0.64	0.52	0.73
乳汁	—	<0.01	<0.01

—：測定せず

定量限界：筋肉及び脂肪 0.05 ppm、肝臓及び腎臓 0.1 ppm、乳汁 0.01 ppm

#### ② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏（白色レグホン種、15羽/群）に対して、0.5, 1.5及び5 ppmに相当するメタラキシルを含む飼料を28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓及び鶏卵に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリンに分解し、トリクロロアセチル誘導体とし、GC-NPDで測定した。結果は表2を参照。

表2. 産卵鶏の組織中における残留濃度(mg/kg)

	1.5 ppm 投与群	5.0 ppm 投与群
皮膚	<0.05	<0.05
筋肉	<0.05	<0.05
脂肪	<0.05	<0.05
肝臓	<0.1	<0.1
鶏卵	<0.05	<0.05

定量限界：皮膚、筋肉及び脂肪 0.05 ppm、肝臓 0.1 ppm

### （4）推定残留濃度

牛及び鶏について、MDB と各試験における投与量から、畜産物中の推定残留濃度（最大値）を算出した。結果については、表 3-1 及び 3-2 を参照。

表 3-1. 畜産物中の推定残留濃度；牛 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
乳牛	<0.05	<0.05	0.21	0.67	<0.01
肉牛	<0.05	<0.05	0.22	0.53	

表 3-2. 畜産物中の推定残留濃度；鶏 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	卵
産卵鶏	<0.05	<0.05	<0.1		<0.05
肉用鶏	<0.05	<0.05	<0.1		

## 6. ADI 及び ARfD の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたメタラキシル及びメタラキシル M に係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

### (1) ADI

無毒性量：8.0 mg/kg 体重/day

(動物種) イヌ

(投与方法) 経口及び混餌

(試験の種類) 亜急性毒性試験（メタラキシル M）及び慢性毒性試験（メタラキシル）の総合評価

(期間) 90 日間、6 か月間及び 2 年間

安全係数：100

ADI：0.08 mg/kg 体重/day

### (2) ARfD

無毒性量：50 mg/kg 体重/day

(ARfD 設定根拠資料①) 亜急性毒性試験（メタラキシル M）

(動物種) ラット

(投与方法) 経口

(ARfD 設定根拠資料②) 一般薬理試験（メタラキシル）

(動物種) 雄マウス

(投与方法) 経口

安全係数：100

ARfD：0.5 mg/kg 体重

## 7. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価が行われ、2002年にADIが設定され、ARFDは設定不要と評価されている。国際基準はメタラキシルについて、らっかせい、キャベツ等に設定されている。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国において小豆類、ばれいしょ等に、カナダにおいて小麦、大豆等に、EUにおいてたまねぎ、にんにく等に、豪州において仁果果実類、パイナップル等に、ニュージーランドにおいてベリー類、ぶどう等に基準値が設定されている。

## 8. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

農産物及び魚介類にあつてはメタラキシル（メタラキシルMを含む）のみとし、畜産物にあつてはメタラキシル（メタラキシルMを含む）及び加水分解により2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物とする。

動物体内運命試験において、泌乳ヤギで親化合物は検出されておらず代謝物のみが検出され、産卵鶏において親化合物は砂嚢等の一部で認められているが、主に代謝物が検出されている。また、畜産物の残留試験においてメタラキシル（メタラキシルMを含む）及び代謝物を2,6-ジメチルアニリンに加水分解しメタラキシルに換算した残留濃度を分析している。このことから、畜産物の規制対象をメタラキシル（メタラキシルMを含む）及び加水分解により2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物とした。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてメタラキシル及びメタラキシルM（親化合物のみ）、畜産物中の暴露評価対象物質としてメタラキシル及びメタラキシルM並びに2,6-ジメチルアニリン基を有する代謝物としている。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

### (3) 暴露評価

#### ① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬等のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	TMDI/ADI (%) <sup>注)</sup>
国民全体 (1 歳以上)	10.9
幼小児 (1~6 歳)	23.3
妊婦	10.2
高齢者 (65 歳以上)	12.0

注) 各食品の平均摂取量は、平成 17~19 年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

TMDI 試算式：基準値案×各食品の平均摂取量

## ② 短期暴露評価

各食品の短期推定摂取量(ESTI)を算出したところ、国民全体 (1 歳以上)、幼小児 (1~6 歳) のそれぞれにおける摂取量は急性参照用量 (ARFD) を超えていない<sup>注)</sup>。詳細な暴露評価は別紙 4-1 及び 4-2 参照。なお、小豆類、やまいも、しゅんぎく、にんにく、にんじん、セロリ、おうとう及びいちごの暴露評価には、基準値の設定に用いた米国の作物残留試験の結果が代謝物を含むことから、最高残留濃度 (HR) 又は中央値 (STMR) に換算係数 0.7 を乗じた値を用いた。

注) 基準値案、作物残留試験における最高残留濃度 (HR) 又は中央値 (STMR) を用い、平成 17~19 年度の食品摂取頻度・摂取量調査及び平成 22 年度の厚生労働科学研究の結果に基づき ESTI を算出した。

## メタラキシルの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤 +メタラキシル 2.0%粒剤	500 ppm種子浸漬 +育苗箱処理80 g/箱	1+1	134	圃場A:<0.01 (#) 注2)
					142	圃場B:<0.01 (#)
	2	メタラキシル 25%水和剤 +メタラキシル 2.0%粒剤 +メタラキシル 2.0%粒剤	500 ppm種子浸漬 +育苗箱処理80 g/箱 +湛水散布12.5 kg/10 a	1+1+2	93	圃場A:<0.01 (#)
					70	圃場B:0.02 (#)
	2	メタラキシル 0.5%粉剤 +メタラキシル 4.0%液剤 +メタラキシル 2.0%粒剤	育苗箱処理8 g/箱 +500倍育苗箱処理500 mL/箱 +湛水散布6 kg/10 a	1+2+2	45, 60, 89	圃場A:<0.01 (5回, 89日) (#)
						圃場B:<0.01 (5回, 89日) (#)
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	143	圃場A:<0.005 (#)
					130	圃場B:<0.005 (#)
あずき (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 100, 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.005 (3回, 21日) (#)
						圃場B:<0.005 (3回, 21日) (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500 L/10 a	4	6, 14, 21	圃場A:<0.05 (4回, 6日) (#)
						圃場B:0.06 (4回, 14日) (#)
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	作条処理 10, 20 kg/10 a	1	139	圃場A:0.01 (#)
					168	圃場B:0.02 (#)
	2	メタラキシル 1.5%粉剤	全面土壌混和 20 kg/10 a	1	139	圃場A:0.01
					168	圃場B:0.06
	2	メタラキシル 2.0%粒剤	植付時全面土壌混和 15 kg/10 a	1	149	圃場A:<0.008
					158	圃場B:<0.008
	2	メタラキシル 2.0%粒剤	植付時植溝処理 10 kg/10 a	1	149	圃場A:<0.008
					158	圃場B:<0.008
3	メタラキシル 2.0%粒剤	植付時植溝処理 +培土時株元散布 5 kg/10 a+5 kg/10 a	2	114	圃場A:<0.008 (#)	
				133	圃場B:<0.008 (#)	
2	メタラキシル 2.0%粒剤	培土時土壌表面散布 5 kg/10 a	1	151, 158, 165	圃場A:<0.05	
				99, 106, 113	圃場B:<0.05	
さとうきび (茎部)	2	メタラキシル 0.5%粉剤	植溝土壌混和 5 kg/10 a	1	243, 334	圃場A:<0.01 (1回, 243日)
					圃場B:<0.01 (1回, 243日)	
だいこん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	47	圃場A:<0.04 (#)
					64	圃場B:<0.04 (#)
	2	メタラキシル 2.0%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9 kg/10 a	1	53, 60, 67	圃場A:0.03 (1回, 53日)
だいこん (葉部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	47	圃場A:<0.04 (#)
					64	圃場B:<0.04 (#)
	2	メタラキシル 2.0%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9 kg/10 a	1	53, 60, 67	圃場A:0.04 (1回, 53日)
かぶ (根部)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10 kg/10 a	1	91, 96, 101	圃場A:<0.1 (1回, 91日)
					85, 90, 95	圃場B:<0.1 (1回, 85日)
かぶ (葉部)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10 kg/10 a	1	91, 96, 101	圃場A:<0.1 (1回, 91日)
					85, 90, 95	圃場B:<0.1 (1回, 85日)
わさびだいこん (根部)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 200, 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:<0.02 (3回, 14日) (#)
						圃場B:0.03 (3回, 14日) (#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500 L/10 a	2, 4	7, 14, 21	圃場A:0.20 (2回, 7日) (#)
						圃場B:0.21 (4回, 7日) (#)
	2	メタラキシル 25%水和剤 +8.0%水和剤	粉衣+800倍散布 種子重量の0.5%+200 L/10 a	1+3	3, 7, 14	圃場A:0.02 (4回, 7日) (#)
						圃場B:0.088 (4回, 7日) (#)



## メタラキシルの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	83	圃場A:<0.01(#)
					115	圃場B:<0.01(#)
こまつな (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200,200~250 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場A:0.022(3回, 14日)(#)
						圃場B:0.07(3回, 21日)(#)
みずな (茎葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	播種前全面土壌混和处理 10 kg/10 a	1	21, 28, 35	圃場A:0.20
						圃場B:0.44
チンゲンサイ (茎葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	全面土壌混和处理 9 kg/10 a	1	18, 25, 32	圃場A:1.02(1回, 21日)
						圃場B:0.40(1回, 21日)
ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 100~280, 300 L/10 a	3	21, 28, 35	圃場A:<0.1(3回, 21日)(#)
						圃場B:<0.1(3回, 21日)(#)
ひろしまな (茎葉)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	600倍散布 150 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.26
						圃場B:0.25
タアサイ (茎葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	全面土壌混和处理 9 kg/10 a	1	21, 28, 35	圃場A:0.26(1回, 28日)(#)
						圃場B:<0.05(1回, 21日)(#)
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 200 L/10 a	5	7, 14, 21	圃場A:<0.01(5回, 7日)(#)
						圃場B:0.028(5回, 7日)(#)
						圃場A:<0.01(4回, 7日)(#)
根深ねぎ (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場B:<0.01(4回, 7日)(#)
						圃場B:<0.01(4回, 7日)(#)
葉ねぎ (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤 +8.0%水和剤	湿粉衣+400倍散布 種子重量の0.5% +100, 150 L/10 a	1+3	3, 7, 14	圃場A:<0.01(4回, 7日)(#)
						圃場B:<0.01(4回, 7日)(#)
らっきょう (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	8倍空中散布 1.5~1.8 L/10 a	3	7	圃場A:<0.01(#)
						圃場B:<0.01(#)
らっきょう (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150 L/10 a	4	21	圃場A:<0.05(#)
						圃場A:<0.05(#)
						圃場A:0.17(4回, 21日)(#)
						圃場A:<0.1(3回, 14日)(#)
にんじん (根部)	2	メタラキシル 10%水和剤	150, 250 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場B:<0.1(3回, 14日)(#)
						圃場B:<0.1(3回, 14日)(#)
にんじん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	107	圃場A:<0.01(#)
					120	圃場B:<0.01(#)
パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	株元散布 10 kg/10 a	3	22, 32, 41	圃場A:0.22(3回, 22日)
						圃場B:0.46(3回, 22日)
パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	株元散布 20 kg/10 a	3	22, 32, 41	圃場A:0.40(3回, 32日)
						圃場B:0.56(3回, 22日)
みつば (茎葉)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	800倍散布 150, 100 L/10 a	1	3, 7, 14	圃場A:0.74
						圃場B:<0.05
せり (茎葉)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	湛水土壌全面散布 6 kg/10 a	1	22, 28, 35	圃場A:0.15(1回, 22日)
					14, 21, 26, 35	圃場B:0.34
トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500 L/10 a	5	1, 3, 7	圃場A:0.34(5回, 1日)(#)
						圃場B:0.31(5回, 1日)(#)
ミニトマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260 L/10 a	3, 4	1, 3, 7	圃場A:0.30(4回, 1日)(#)
						圃場A:0.2
ミニトマト (果実)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	400倍散布 200, 300 L/10 a	3	1, 7, 14	圃場B:0.66
						圃場B:0.66

## メタラキシルの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) <sup>注1)</sup>
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400 mL/株	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:0.86(3回, 7日) (#)
					1, 3, 7, 14	圃場B:0.44(3回, 14日) (#)
	4	メタラキシル 2.0%粒剤	株元散布 4 g/株	3	1, 3, 7, 15, 21, 30	圃場A:0.38(3回, 7日) (#)
						圃場B:0.05(3回, 1日) (#)
					圃場C:0.31(3回, 15日) (#)	
					圃場D:0.60(3回, 3日) (#)	
なす (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 220 L/10 a	4	1, 7, 14	圃場A:0.2(4回, 1日) (#)
						圃場B:0.5(4回, 1日) (#)
ししとう (果実)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	株元散布 3 g/株	3	1, 3, 7	圃場A:0.08(3回, 7日)
						圃場B:0.05
きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500 L/10 a	5, 7	1, 3, 7	圃場A:0.20(7回, 1日) (#)
						圃場B:0.50(7回, 1日) (#)
						圃場A:0.12(4回, 1日) (#)
						圃場B:0.24(4回, 1日) (#)
かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 300 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場A:0.01(3回, 14日) (#)
						圃場B:0.01(3回, 14日) (#)
						圃場A:0.05(3回, 7日) (#)
						圃場B:0.03(3回, 7日) (#)
すいか (果肉)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	800倍散布 250, 300 L/10 a	3	7, 14, 20	圃場A:0.02(3回, 20日)
					7, 14, 21	圃場B:0.02
メロン (果肉)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 14, 30	圃場A:0.23(3回, 3日) (#)
						圃場B:0.04(3回, 14日) (#)
ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	40, 47	圃場A:<0.01(1回, 40日) (#)
					31, 38	圃場B:<0.01(1回, 31日) (#)
					59, 64, 69	圃場A:<0.1(1回, 59日)
					113, 118, 123	圃場B:0.32(1回, 113日)
オクラ (果実)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 10 kg/10 a	3	1, 7, 14	圃場A:0.10
						圃場B:0.35(3回, 14日)
しょうが (塊茎)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 20 kg/10 a	3	30, 45, 60	圃場A:0.30(3回, 60日)
					30, 46, 60	圃場B:0.31(3回, 46日)
葉しょうが (茎部, 塊茎)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌混和+土壌表面散布 20 kg/10 a+20 kg/10 a	1+2	21, 30, 45	圃場A:0.23(3回, 45日)
						圃場B:0.19(3回, 30日)
だいず (えだまめ)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1	108	圃場A:<0.005(#)
					100	圃場B:<0.005(#)
たらのき (芽部)	1	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 20 kg/10 a	1, 2	186, 217	圃場A:<0.01(2回, 186日)
						圃場A:0.015
うど (茎葉)	5	メタラキシル 8.0%水和剤	800倍根株浸漬	1	25	圃場A:0.26
					20, 30	圃場B:0.26
					25, 35, 45	圃場C:0.02(1回, 20日)
						圃場D:0.2(1回, 35日)
						圃場E:<0.1
くわい (塊茎)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	湛水散布 6 kg/10 a	2	21, 30, 43	圃場A:<0.05
						圃場B:0.12(2回, 30日)
温州みかん (果肉)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	600倍散布 400, 500 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:0.04
						圃場B:0.02
温州みかん (果皮)	2	メタラキシル 8.0%水和剤	600倍散布 400, 500 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A: 1.26
						圃場B: 1.66

## メタラキシルの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
いちご (果実)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	定植前畝面土壌混和处理 +マルチ前土壌表面処理 10 kg/10 a+10 kg/10 a	1+1	89	圃場A:0.13 (#)
					63	圃場B:0.25 (#)
	1	メタラキシル 2.0%粒剤	定植前畝面土壌混和处理 10 kg/10 a	1	118	圃場A:0.03 (#)
ぶどう (小粒種) (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300 L/10 a	1, 2	45, 60, 80	圃場A:0.37 (2回, 45日) (#)
					44, 59, 75	圃場B:0.14 (1回, 44日) (#)
ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300 L/10 a	1, 2	49, 64, 83	圃場A:0.40 (2回, 49日) (#)
	1	メタラキシル 25%水和剤	2500倍散布 300 L/10 a	2	49, 64, 83	圃場B:0.14 (2回, 49日) (#)
ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2.0%粒剤	株元処理 20 g/株	1	122	圃場A: 1.0
					113	圃場B:0.6
	2	メタラキシル 2.0%粒剤 +15%水和剤	株元処理+500倍散布 20 g/株+300~600 L/10 a	1+4	17	圃場A: 5.8 (#)
みょうが (花蕾)	1	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 30 kg/10 a	2	23, 30, 37	圃場A: 1.02 (2回, 30日) (#)
					13, 20, 27	圃場A:0.64 (2回, 27日) (#)
みょうが (花蕾)	1	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 30 kg/10 a	1	23, 30, 37	圃場A:0.60 (1回, 30日) (#)
	1	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 20 kg/10 a	1	23, 30, 37	圃場A:0.44
	1	メタラキシル 2.0%粒剤	土壌表面散布 20 kg/10 a	2	39, 58, 73	圃場A:0.35 (2回, 73日)

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について ( ) 内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

※) メタラキシルMに係る作物残留試験については、既登録のメタラキシルと同じ剤型で投下薬量がメタラキシルの範囲内であるものは、メタラキシルの試験成績で代替されている (みょうが等)。

## メタラキシルMの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	500倍散布 200~250 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01(3回, 21日) (#) 圃場B:<0.01(3回, 21日) (#)
	2	メタラキシルM 1.7%水和剤	原液 8 mL/kg種子	1	125 127	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
あずき (乾燥子実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	500倍散布 120~200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01(3回, 21日) (#) 圃場B:<0.01(3回, 21日) (#)
	2	メタラキシルM 1.7%水和剤	原液 8 mL/kg種子	1	125 112	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
いんげんまめ (乾燥子実)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤	原液 8 mL/kg種子	1	94 91	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
べにばないんげん (乾燥子実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	株元散布 1 g/株	1	89, 96, 103 91, 98, 105	圃場A:<0.02(1回, 89日) 圃場B:<0.02(1回, 91日)
ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	2.42 g/L(413倍)散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01(3回, 7日) (#) 圃場B:0.01(3回, 7日) (#)
てんさい (根部)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤	原液 8 mL/種子100,000粒	1	208 188	圃場A:<0.01 (#) 圃場B:<0.01 (#)
だいこん (つまみ菜)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	土壌混和 9 kg/10 a	1	14	圃場A:0.08 圃場B:0.78
だいこん (間引き菜)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	土壌混和 9 kg/10 a	1	20 23	圃場A:0.02 圃場B:0.14
わさびだいこん (根部)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	1000倍散布 150~200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01(3回, 14日) (#) 圃場B:0.01(3回, 14日) (#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 220, 250~300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.02(3回, 7日) (#) 圃場B:0.03(3回, 7日) (#)
キャベツ (葉球)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.04(3回, 14日) (#) 圃場B:0.12(3回, 14日) (#)
ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	800倍散布 250~300 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:<0.1 圃場B:<0.1
ごぼう (根部)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	播種前作土壌混和 18 kg/10 a	1	141, 148, 155 148, 155, 162	圃場A:<0.01(1回, 141日) 圃場B:<0.01(1回, 148日)
リーフレタス (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	800倍散布 300 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:<0.01 圃場B:0.19
レタス (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 200 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.02(3回, 14日) (#) 圃場B:0.09(3回, 14日) (#)
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 200, 250 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:<0.01(3回, 7日) (#) 圃場B:0.01(3回, 7日) (#)
ねぎ (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 200, 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.02(3回, 14日) (#) 圃場B:0.03(3回, 14日) (#)
	2	メタラキシルM 1.0%粒剤 +3.3%水和剤	土壌混和+330倍散布 9 kg/10 a+181, 200 L/10 a	1+3	7, 14, 21	圃場A:0.05(4回, 21日) (#) 圃場B:<0.01(4回, 21日) (#)
アスパラガス (若茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	1000倍散布 150, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.01 圃場B:0.04
わけぎ (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	800倍散布 178, 180 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
らっきょう (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 208, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.01(3回, 14日) (#) 圃場B:<0.01(3回, 14日) (#)
にんじん (根部)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	土壌混和 18 kg/10 a	1	89, 96, 103	圃場A:0.026(1回, 89日)
					94, 101, 108	圃場B:0.022(1回, 94日)

## メタラキシルMの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
トマト (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	826倍散布 258,269 L/10 a	4	1, 3, 7	圃場A:0.09(4回,1日) (#) 圃場B:0.15(4回,1日) (#)
	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270,260 L/10 a	3,4	1, 3, 7	圃場A:0.12(3回,1日) (#)
ミニトマト (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	800倍散布 190,200 L/10 a	4	1, 3, 7, 14	圃場A:0.03(4回,7日) (#) 圃場B:0.01(4回,7日) (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	株元散布 3 g/株	3	1, 3, 7	圃場A:0.11(3回,3日) 圃場B:0.10(3回,7日)
	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	株元散布 3 g/株	4	1, 7, 14, 21, 28	圃場A:<0.1(4回,1日) (#) 圃場B:<0.1(4回,1日) (#)
なす (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 130~150,200 L/10 a	3	1, 7, 14	圃場A:0.08(3回,1日) (#) 圃場B:0.18(3回,1日) (#)
ししとう (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	株元散布 3 g/株	4	1, 7, 14, 21, 28	圃場A:<0.1(4回,1日) (#) 圃場B:<0.1(4回,1日) (#)
甘長とうがらし (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	株元散布 3 g/株	4	1, 3, 7, 14 1, 3, 7, 14, 21, 28	圃場A:0.5(4回,1日) (#) 圃場B:<0.1(4回,1日) (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	826倍散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.12(3回,1日) (#) 圃場B:0.17(3回,3日) (#)
	1	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 220 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.18(3回,1日) (#)
	2	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 300 L/10 a	4	1, 3, 7	圃場A:0.10(4回,1日) (#) 圃場B:0.13(4回,3日) (#)
かぼちゃ (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	1000倍散布 200,286 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.01(3回,14日) 圃場B:0.01
すいか (果肉)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	1.21 g/L(826倍)散布 200,300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.01(3回,7日) (#) 圃場B:<0.01(3回,7日) (#)
メロン (果肉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 250,300 L/10 a	3	1, 7, 14	圃場A:<0.01(3回,7日) (#) 圃場B:<0.01(3回,7日) (#)
オクラ (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	土壌混和+株元散布 18 kg/10 a+9 kg/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A:0.02 圃場B:0.02
	2	メタラキシルM 1.0%粒剤 +メタラキシル 2.0%粒剤	土壌混和+株元散布 18 kg/10 a+10 kg/10 a	1+3	1, 3, 7, 14	圃場A:0.16(4回,7日) 圃場B:0.28
葉しょうが (茎葉,根茎)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	土壌表面散布 18 kg/10 a	3	14, 21, 28, 35	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
えだまめ (さや)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤	原液 8 mL/kg種子	1	83 69	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
たらすき (可食部)	2	メタラキシルM 1%粒剤	土壌表面散布 20 kg/10 a	2	60, 75, 90	圃場A:<0.01 圃場B:0.03
いちご (果実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤 +メタラキシル 2.0%粒剤	1000倍散布,50 mL/株 +10 kg/10 a	3+1	96, 103, 110	圃場A:<0.01(4回,96日) (#)
					63, 70, 77	圃場B:0.06(4回,63日) (#)
ぶどう (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	1.21 g/L散布(826倍)散布 300 L/10 a	2	42, 56, 70	圃場A:0.04(2回,70日) (#) 圃場B:0.01(2回,42日) (#)

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に使い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験)を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について( )内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (EU)

農作物	試験圃場数	試験条件			残留濃度 (mg/kg) 注1) 【メタラキシル】	
		剤型	使用量・使用方法	回数 経過日数		
レモン	4	メタラキシルM 2.5%粒剤 メタラキシルM 42.5%水和剤	2.5%粒剤 1 g ai/樹 株元処理 200 g ai/ha 茎葉散布	2+2	7, 15, 30	圃場A: 0.08 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.14 (果皮) (4回, 15日) (#)
					7, 15, 30	圃場B: 0.37 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.68 (果皮) (4回, 15日) (#)
					7, 15, 30	圃場C: 0.28 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.48 (果皮) (4回, 15日) (#)
					7, 15, 30	圃場D: 0.41 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.63 (果皮) (4回, 15日) (#)
	2	メタラキシル 25%水和剤	320 g ai/ha 茎葉散布 (計 1920 g ai/ha)	6	137 137	圃場E: <0.03 (全果) (#) 圃場F: <0.03 (全果) (#)
	オレンジ	5	メタラキシルM 2.5%粒剤 メタラキシルM 42.5%水和剤	2.5%粒剤1.00 g/m <sup>2</sup> 土壌処理 42.5%水和剤 3179 g ai/ha 茎葉散布	2+2	15
圃場B: 0.02 (全果換算) (#) 0.04 (果皮) (#)						
圃場C: 0.03 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.06 (果皮) (4回, 15日) (#)						
圃場D: 0.05 (全果換算) (4回, 15日) (#) 0.11 (果皮平均) (4回, 15日) (#)						
メタラキシルM 2.5%粒剤 メタラキシルM 68%水和剤		2.5%粒剤 1.00 g/m <sup>2</sup> 土壌処理 68%水和剤 6331 g ai/ha 茎葉散布	2+2	14	圃場E: 0.11 (全果換算) (#) 0.24 (果皮) (#)	
マンダリン	4	メタラキシルM 42.5%水和剤	200 g ai/ha 茎葉散布 (計 400 g ai/ha)	2	3, 7, 15, 30	圃場A: 0.17 (全果) (2回, 15日) (#)
					14	圃場B: 0.08 (全果換算) (#)
					15	圃場C: 0.16 (全果換算) (#)
					16	圃場D: 0.17 (全果換算) (#) 0.41 (果皮) (#)
りんご	2	メタラキシルM 2.5%粒剤	10 kg ai/ha (4 g ai/樹)	2	4, 7, 14, 21	圃場A: <0.02 (2回, 14日) (#)
			3, 7, 14, 21		圃場B: <0.02 (2回, 14日) (#)	
	2	1 g ai/樹		2	7, 14, 21	圃場C: <0.02 (2回, 14日)
					7, 14, 21	圃場D: <0.02 (2回, 14日)

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について ( ) 内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 全果 (fruit) は、全果を分析した残留値。全果換算 (fruit subspecimen) は、果実と果皮に分けて分析し、全果の濃度に換算した値。平均値の算出においては、全果又は全果換算のPHIの値を全果として算出に供している。

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
インゲン (種実)	2	メタラキシル25.2%乳剤	2.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	90	圃場A: <0.05 (#) 注2)
		メタラキシル5%乳剤				圃場B: <0.05 (#)
	2	メタラキシル25.2%乳剤	4.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	90	圃場C: <0.05 (#)
		メタラキシル5%乳剤				圃場D: <0.05 (#)
1	メタラキシル25.2%乳剤	2.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	108	圃場E: 0.06 (#)	
エンドウ (種実)	3	メタラキシル25.2%乳剤	2.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	66	圃場A: <0.05 (#)
						圃場B: 0.08 (#)
						圃場F: <0.05 (#)
	1	メタラキシル25.2%乳剤	4.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	54	圃場C: 0.08 (#)
	1	メタラキシル25.2%乳剤	0.25 lb ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	54	圃場D: <0.05
1	メタラキシル25.2%乳剤	0.5 lb ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	54	圃場E: 0.06	
1	メタラキシル5%粒剤	2.0 lbs ai/acre 播種時、全面土壌散布	1	89	圃場G: 0.06 (#)	
リマ豆 (種実)	4	メタラキシルM4.7%水和剤	0.1 lb ai/acre 播種時、全面土壌散布	4	3	圃場A: <0.05
						圃場B: <0.05
						圃場C: <0.05
						圃場D: <0.05
ばれいしょ (塊茎)	4	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8%水和剤	乳剤、種いも播種時 畝間処理 12 g ai/1000 linear foot 水和剤、生育期、茎葉処理0.2 lb ai/acre	1+4	4	圃場A: <0.05 (#)
						圃場B: <0.05 (#)
	4	メタラキシルM45.9%乳剤 メタラキシルM3.96%水和剤	乳剤、種いも播種時、 畝間処理 6 g ai/1000 linear foot 水和剤、生育期、茎葉処理 0.2 lb ai/acre	1+4	4	圃場C: <0.05 (#)
						圃場D: <0.05 (#)
	4	メタラキシル8%水和剤	生育期、茎葉処理0.2 lb ai/acre (合計0.8 lb ai/acre)	4	3	圃場E: <0.05 (#)
						圃場F: <0.05 (#)
	4	メタラキシルM3.96%水和剤	生育期、茎葉処理0.2 lb ai/acre (合計0.8 lb ai/acre)	4	4	圃場G: <0.05 (#)
						圃場H: <0.05 (#)
ばれいしょ (成熟塊茎)	4	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場I: <0.05 (#)
						圃場J: <0.05 (#)
	3	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場K: <0.05 (#)
						圃場L: <0.05 (#)
	1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布 水和剤 0.17 lb ai/acre 茎葉散布	1+3+1	8	圃場M: <0.05 (#)
	ばれいしょ (全塊茎)	1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7
圃場O: <0.05 (#)						
だいこん (根部)	3	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8.9%水和剤	乳剤1.0 lb ai/acre 茎葉散布 水和剤 1.16 lbs ai/acre 茎葉散布 (合計3.32 lbs ai/acre)	1+2	7	圃場P: <0.05 (#)
						圃場Q: 0.27 (#)
						圃場R: 0.39 (#)
	3	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	7	圃場S: 0.26 (#)
						圃場T: 0.29 (#)
1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	7	圃場U: 0.28 (#)	
					圃場V: 0.35 (#)	
					圃場W: 0.57 (#)	

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (葉部)	3	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8.9%水和剤	乳剤1.0 lb ai/acre 茎葉散布1回 水和剤 1.16 lbs ai/acre 茎葉散布2回 (合計3.32 lbs ai/acre)	1+2	7	圃場A: 11.6 (#) 圃場B: 7.2 (#) 圃場C: 1.6 (#)
	3	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	7	圃場A: 13 (#) 圃場B: 1.8 (#) 圃場C: 6.2 (#)
	1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	7	圃場C: 14 (#)
てんさい (根部)	7	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場A: 0.10 (#) 圃場B: 0.10 (#) 圃場C: 0.11 (#) 圃場D: 0.20 (#) 圃場F: 0.10 (#) 圃場G: 0.036 (#)
	2	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場E: <0.05 (#) 圃場F: 0.90 (#) 圃場G: 0.07 (#)
てんさい (葉部)	6	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場A: 4.4 (#) 圃場B: 4.2 (#) 圃場C: 1.5 (#) 圃場D: 2.3 (#) 圃場F: 2.1 (#)
	1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布4回	1+4	7	圃場E: 1.1 (#) 圃場F: 3.2 (#)
トマト (成熟果実)	2	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8.9%水和剤	乳剤0.99 lb ai/acre 土壌表面散布 水和剤 0.25 lb ai/acre 茎葉散布 (合計2.98 lbs ai/acre)	2+4	5	圃場A: 0.16 (#)
	2	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8.9%水和剤	乳剤2.97 lbs ai/acre 土壌表面散布 水和剤 0.75 lb ai/acre 茎葉散布 (合計8.94 lbs ai/acre)	2+4	4	圃場B: 0.05 (#) 圃場C: 0.49 (#) 圃場D: 0.18 (#)
	2	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル8.9%水和剤	乳剤4.95 lbs ai/acre 土壌表面散布 水和剤 1.25 lbs ai/acre 茎葉散布 (合計14.9 lbs ai/acre)	2+4	5	圃場E: 2.2 (#) 圃場F: 0.27 (#)
スナップエンドウ (鞘及び種実)	8	メタラキシルM49%乳剤 メタラキシルM4.7%水和剤	乳剤 0.5 lb ai/acre 定植前土壌表面散布 水和剤 0.1 lb ai/acre 茎葉散布 (合計0.7 lb ai/acre)	1+2	7	圃場A: <0.05 <sup>注4)</sup> 圃場B: <0.05 圃場C: <0.05
					6	圃場D: <0.05
					7	圃場E: <0.05
					6, 14	圃場F: 0.17 (3回, 6日)
					6, 13	圃場G: <0.05 (3回, 6日)
6	圃場H: <0.05					
にんじん (根部)	4	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場A: <0.05 (#) 圃場B: 0.22 (#) 圃場C: 0.06 (#) 圃場D: <0.05 (#)
	2	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7	圃場A: 0.9 (#) 圃場B: 0.26 (#)



## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
高麗人参 (根茎)	6	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル2%乳剤	粒剤0.75 lb ai/acre2回 0.5 lb ai/acre 3回 (合計3.0 lbs ai/acre散布)	5	9	圃場A: 2.4 (#)
						圃場C: 0.88 (#)
	4	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル2%乳剤	粒剤1.5 lbs ai/acre 2回 1.0 lb ai/acre 3回 (合計6.0 lbs ai/acre散布)	5	9	圃場F: 0.47 (#)
						圃場H: 0.72 (#)
	4	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	25.2% 乳剤0.75 lb ai/acre 2回 0.5 lb ai/acre 3回 (合計3.0 lbs ai/acre散布)	5	7	圃場K: 0.30 (#)
						圃場N: 0.20 (#)
3	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 26	圃場B: 1.2 (#)	
					圃場D: 1.4 (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 27	圃場I: 1.2 (#)	
					圃場L: 0.68 (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14	圃場E: 0.45 (#)	
					圃場G: 0.44 (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 27	圃場J: 0.77 (#)	
					圃場M: 0.30 (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 29	圃場A: 0.22 (3回, 26日)	
					圃場B: 0.14 (3回, 0日)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 27	圃場C: 0.43 (3回, 27日)	
					圃場D: 0.74 (3回, 0日)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14	圃場A: 0.58 (3回, 14日) (#)	
					圃場B: 0.79 (3回, 0日) (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14	圃場C: 0.27 (3回, 14日) (#)	
					圃場D: 0.79 (3回, 0日) (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 30	圃場A: 0.27 (3回, 14日) (#)	
					圃場B: 0.45 (3回, 30日) (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 30	圃場A: 0.07 (3回, 13日) (#)	
					圃場B: 0.15 (3回, 15日) (#)	
4	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 13, 30	圃場D: 0.30 (3回, 0日) (#)	
					圃場F: <0.05 (3回, 14日) (#)	
3	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計48.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 28	圃場E: 0.26 (3回, 0日) (#)	
					圃場C: 0.32 (3回, 15日) (#)	
1	メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面土壌散布 (合計24.0 lbs ai/acre)	3	0, 14, 28	圃場G: <0.05 (3回, 14日) (#)	
					圃場H: 2.5 (#)	
いちご (果実)	8	メタラキシル50%水和剤 メタラキシル25.2%乳剤 メタラキシル2%乳剤 メタラキシル50%水和剤	1.0 lb ai/acre 定植時散布、生育期散布 (合計3.0 lbs ai/acre)	1+2	0	圃場A: 3.8 (#)
						圃場B: 2.5 (#)
						圃場C: 2.7 (#)
						圃場D: 4.1 (#)
ブルーベリー (果実)	7	メタラキシル25.2%乳剤	3.62 lbs ai/acre 带状土壌散布、土壌灌注 (合計7.24 lbs ai/acre)	1+1	0, 18, 34	圃場E: 2.2 (#)
						圃場F: 2.2 (#)
						圃場G: 3.1 (#)
	6	メタラキシル25.2%乳剤	7.24 lbs ai/acre 带状土壌散布、土壌灌注 (合計14.48 lbs ai/acre)	1+1	0, 14, 28	圃場H: 2.5 (#)
						圃場I: <0.05 (2回, 0日) (#)
						圃場J: 0.08 (2回, 28日) (#)
0, 14, 28	圃場L: 1.1 (2回, 0日) (#)	圃場B: 1.53 (2回, 0日) (#)	圃場E: 0.24 (2回, 29日) (#)	圃場G: 0.16 (2回, 28日) (#)	圃場I: <0.05 (2回, 0日) (#)	
						圃場K: 0.07 (2回, 28日) (#)
						圃場M: 0.61 (2回, 0日) (#)

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験 圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ブラックベリー (果実)	1	メタラキシルM49.0%乳剤 メタラキシルM5.0%水和剤	乳剤1.81 lbs ai/acre 土壌表面散布 水和剤0.10 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	0	圃場A: 0.34 <sup>注4)</sup>
ボイゼンベリー (果実)	1	メタラキシルM49.0%乳剤 メタラキシルM5.0%水和剤	乳剤1.75 lbs ai/acre 土壌表面散布 水和剤0.10 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	0	圃場B: 0.28
ラズベリー (果実)	4	メタラキシルM49.0%乳剤 メタラキシルM5.0%水和剤	乳剤1.82~1.98 lbs ai/acre 土壌表面散布、 水和剤0.10 lb ai/acre 茎葉散布	1+2	0	圃場C: 0.23 圃場D: 0.25 圃場E: 0.29 圃場F: 0.53
アーモンド (子実)	3	メタラキシル25.2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面散布	1	0, 14, 29 0, 14, 28	圃場A: 0.25 (1回, 14日) (#) 圃場C: <0.05 (1回, 0日) (#)
	3	メタラキシル25.2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面散布	1	0, 14, 29 0, 14, 28	圃場E: 0.21 (1回, 14日) (#) 圃場B: 0.35 (1回, 14日) (#) 圃場D: <0.05 (1回, 0日) (#)
クルミ (子実)	3	メタラキシル25.2%乳剤	8.0 lbs ai/acre 全面散布	1	0, 15, 30 0, 14, 30	圃場F: 0.74 (1回, 0日) (#) 圃場A: 0.08 (1回, 0日) (#) 圃場C: <0.05 (1回, 0日) (#)
	3	メタラキシル25.2%乳剤	16.0 lbs ai/acre 全面散布	1	0, 15, 30 0, 14, 30	圃場E: <0.05 (1回, 0日) (#) 圃場B: 0.11 (1回, 15日) (#) 圃場D: 0.05 (1回, 14日) (#) 圃場F: <0.05 (1回, 0日) (#)
結球レタス	6	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和 剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7, 14	圃場A: 0.08 (#) 圃場B: 1.5 (#) 圃場C: 0.50 (#) 圃場D: 0.19 (#) 圃場E: 4.3 (#) 圃場F: 1.4 (#)
	8	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和 剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	4 5 7	圃場J: 0.44 (#) 圃場G: 3.3 (#) 圃場H: 2.3 (#) 圃場I: 0.49 (#) 圃場K: <0.05 (#) 圃場L: 0.33 (#) 圃場N: 0.63 (#) 圃場M: 0.1 (#)
	6	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和 剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	4 5 7	圃場J: 0.89 (#) 圃場G: 3.7 (#) 圃場H: 4.9 (#) 圃場K: 0.12 (#) 圃場N: 0.47 (#) 圃場M: 0.21 (#)
	5	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和 剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	7, 14 7	圃場A: 0.08 (#) 圃場D: 0.19 (#) 圃場E: 4.25 (#) 圃場F: 1.43 (#) 圃場B: 1.46 (#)
	1	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和 剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+5	7, 14	圃場C: 0.50 (#)

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件				残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)					
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数						
結球レタス	8	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	4	圃場D: 0.44 (#)					
					5	圃場A: 3.3 (#)					
						圃場B: 2.3 (#)					
	6	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場C: 0.49 (#)					
					7	圃場E: <0.05 (#)					
						圃場F: 0.33 (#)					
非結球レタス	8	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場H: 0.63 (#)					
						5	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場G: 0.10 (#)
											5
	圃場A: 3.7 (#)										
	5	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場B: 4.9 (#)					
						圃場E: 0.12 (#)					
	5	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場C: 3.6 (#)					
						圃場H: 0.47 (#)					
	2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場G: 0.21 (#)					
						圃場A: 3.8 (#)					
	セロリ	7	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場B: 0.71 (#)				
							4	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5
4											
		圃場A: 8.4 (#)									
4		メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場E: 0.80 (#)					
						圃場C: 2.6 (#)					
4		メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場F: 1.4 (#)					
						圃場E: 1.7 (#)					
2		メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場F: 1.6 (#)					
						圃場G: 2.7 (#)					
2		メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場H: 0.80 (#)					
						圃場J: 0.58 (#)					
7	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場C: 2.7 (#)						
					4	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場A: 1.6 (#)	
										4	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤
圃場C: 0.57 (#)											
4	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 2.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場D: 0.88 (#)						
					圃場E: 1.8 (#)						
4	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10.0%水和剤	乳剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場F: 0.83 (#)						
					圃場G: 2.1 (#)						
2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場A: 0.67 (#)						
					圃場B: 0.42 (#)						
2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場G: 2.1 (#)						
					圃場H: 11(☆☆)注5) (#)						
2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場A: 2.3 (#)						
					圃場C: 1.1 (#)						
2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場D: 2.5 (#)						
					圃場F: 1.2 (#)						
2	メタラキシル5%粒剤 メタラキシル10.0%水和剤	粒剤 4.0 lbs ai/acre 植付時土壌処理(混和) 水和剤 0.4 lb ai/acre 茎葉散布	1+4	5	圃場A: 1.3 ** (#)						
					圃場H: 11(☆☆) (#)						

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表 (米国)

農作物	試験圃場数	試験条件			経過日数	残留濃度 (mg/kg) 注1)注4)
		剤型	使用量・使用方法	回数		
たまねぎ (鱗茎)	5	メタラキシル25.1%乳剤	0.25 lb ai/acre 茎葉散布	5	7, 10	圃場A: 0.13 (5回, 7日) (#)
					21, 30	圃場B: <0.05 (5回, 21日) (#)
					7, 11	圃場C: <0.05 (5回, 7日) (#)
					21, 30	圃場D: 0.57 (5回, 21日) (#)
					8, 11, 15, 34	圃場E: <0.05 (5回, 8日) (#)
	1	メタラキシル25.1%乳剤	0.25 lb ai/acre 茎葉散布	9	7, 11	圃場F: 0.09 (9回, 11日) (#)
	5	メタラキシル25.1%乳剤	0.50 lb ai/acre 茎葉散布	5	7, 10	圃場A: 0.22 (5回, 10日) (#)
					21, 30	圃場B: 0.06 (5回, 21日) (#)
					7, 11	圃場C: <0.05 (5回, 7日) (#)
					21, 30	圃場D: 0.80 (5回, 21日) (#)
					8, 11, 15, 34	圃場E: 0.05 (5回, 8日) (#)
	6	メタラキシル25%水和剤	0.20 lb ai/acre 茎葉散布	5	7, 10, 14, 30	圃場A: <0.05 (5回, 7日) (#)
					7, 10, 14, 30	圃場B: <0.05 (5回, 7日) (#)
					7, 10, 14	圃場C: 0.14 (5回, 10日) (#)
					7, 10, 14	圃場D: 0.10 (5回, 10日) (#)
					7, 10, 14, 30	圃場E: 0.20 (5回, 7日) (#)
					7, 10, 14, 30	圃場F: 0.13 (5回, 30日) (#)
2	メタラキシル25%水和剤	0.2 lb ai/acre 茎葉散布	6 <sup>注6)</sup>	7, 11, 15, 30	圃場G: 0.09 (6回, 11日) (#)	
				7, 11, 15, 30	圃場H: <0.05 (6回, 7日) (#)	
5	メタラキシル25.1%乳剤 メタラキシル10%水和剤	2.0 lbs ai/acre 出芽前全面土壌散布 0.2 lb ai/acre 茎葉散布	1+5	7, 11	圃場A: 0.06 (6回, 7日) (#)	
				7, 11	圃場B: 0.51 (6回, 11日) (#)	
				7, 11	圃場C: 1.74 (6回, 11日) (#)	
				7, 10	圃場D: 0.43 (6回, 7日) (#)	
2	メタラキシル10%水和剤	0.2 lb ai/acre 土壌散布	4	7	圃場A: <0.05 (#)	
				5	圃場B: 0.20 (#)	
2	メタラキシル10%水和剤	0.2 lb ai/acre 茎葉散布	4	7	圃場A: <0.05 (#)	
				5	圃場B: 0.06 (#)	

注1) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で試験が行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

注4) スナップエンドウ、ブラックベリー、ラズベリー、ボイゼンベリーを除き、メタラキシルおよびその代謝物の合計値を、メタラキシル濃度に換算した値で示した。

注5) (☆☆)印で示した作物残留試験成績は高温のため試料調製に不適切な条件であった。

注6) 5回目の処理で2倍量を散布した。

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.1	0.1	○			<0.01, 0.02
小麦	0.05	0.05		0.05		
大麦	0.05	0.05		0.05		
ライ麦	0.05	0.05		0.05		
とうもろこし	0.05	0.05		0.05		
そば	0.05	0.05		0.05		
その他の穀類	0.05	0.05		0.05		
大豆	0.05	0.05	○	0.05		【米国インゲン(<0.05(#),<0.05(#), 0.06(#)), 米国エンドウ (<0.05(#)~0.08(#)(n=4))】
小豆類	0.2	0.2	○			【米国インゲン、エンドウ参照】
えんどう	0.2	0.2				
らっかせい	0.1	0.1		0.1		
その他の豆類	0.2	0.2				【米国インゲン、エンドウ参照】
ばれいしょ	0.3	0.3	○	0.05		<0.05(#),0.06(#)
やまいも(長いもをいう。)	0.4	0.4			0.5* 米国	【米国ばれいしょ(<0.05(#)~ 0.11(#)(n=4)), 米国てんさい (<0.05(#)~0.20(#)(n=7)), 米国に んじん(<0.05(#)~0.22(#)(n=4))】 0.01, 0.06(\$)
こんにゃくいも	0.3	0.3	○			
てんさい	0.05	0.05		0.05		
さとうきび	0.05	0.05	○			<0.01, <0.01
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.2	0.2	○			0.03, 0.05
だいこん類(ラディッシュを含む。)	2	2	○			0.08, 0.78(\$)(つまみ菜)
かぶ類の根	0.3	0.3	○			<0.1, <0.1
かぶ類の葉	0.3	0.3	○			<0.1, <0.1
西洋わさび	0.2	0.2	○			<0.02(#), 0.03(#)(わさびだいこん)
はくさい	0.3	0.3	○			0.02(#), 0.088(#)
キャベツ	0.5	0.5	○	0.5		
芽キャベツ	0.2	0.2	○	0.2		
こまつな	1	1	○			0.20, 0.44
きょうな	3	3	○			0.40, 1.02(みずな)
チンゲンサイ	2	2	○			0.16, 0.52(\$)
カリフラワー	0.5	0.5	○	0.5		
ブロッコリー	0.5	0.5	○	0.5		
その他のあぶらな科野菜	0.7	0.7	○			0.26, 0.25(ひろしまな)
ごぼう	0.05	0.05	○			<0.01, <0.01
しゅんぎく	4	4			5.0* 米国	【米国結球レタス(<0.05(#)~4.3(#) (n=25)), 非結球レタス(0.71(#)~ 3.8(#))(n=13)、米国セロリ(0.42(#) ~2.1(#)(n=10))】
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	2	2	○	2		
その他のきく科野菜	4	4			5.0* 米国	【米国結球レタス、非結球レタス、セ ロリ参照】
たまねぎ	2	2	○			<0.01(#), 0.05(#)
ねぎ(リーキを含む。)	0.2	0.2	○			【米国たまねぎ(0.06(#)~ 1.74(#)(n=5))】
にんにく	3	0.5	IT		3.0* 米国	<0.01, 0.04(\$)
アスパラガス	0.2	0.05	申・○	0.05		
わけぎ	0.2	0.2	○			
その他のゆり科野菜	0.3	0.3	○			<0.1(#), <0.1(#)(らっきょう)
にんじん	0.4	0.4	○	0.05	0.5* 米国	【米国ばれいしょ、てんさい、にんじ ん参照】 0.40, 0.56(\$)
パセリ	2	2	○			
セロリ	4	4			5.0* 米国	【米国結球レタス、非結球レタス、セ ロリ参照】
みつば	2	2	○			<0.05, 0.74(\$)
その他のせり科野菜	1	1	○			0.15, 0.34(\$)(せり)

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
トマト	2	2	○	0.5		0.2, 0.66 (\$) (ミニトマト)
ピーマン	2	2	○	1		0.05(#), 0.31(#), 0.38(#), 0.60(#)
なす	1	1	○			0.2(#), 0.5(#)
その他のなす科野菜	1	1	○	1		<0.1(#), 0.5(#) (甘長とうがらし)
きゅうり (ガーキンを含む。)	1	1	○	0.5		0.20(#), 0.50(#)
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	0.2	0.2	○	0.2		0.03(#), 0.05(#)
すいか	0.1	0.2	○			0.02, 0.02
メロン類果実	0.7	0.7	○			0.04(#), 0.23(#) (\$)
ほうれんそう	2	2	○	2		
オクラ	1	1	○			0.10, 0.35 (\$)
しょうが	1	1	○			0.30, 0.31
未成熟えんどう	0.2	0.2		0.05	0.2: 米国	【米国スナップエンドウ (<0.05~0.17(#)(n=8))】
未成熟いんげん	0.2	0.2			0.2: 米国	【米国スナップエンドウ参照】
えだまめ	0.2	0.2	○		0.2: 米国	【米国スナップエンドウ参照】
その他の野菜	3	3	○			【米国高麗人参 (0.18~2.4 (n=10))】
みかん	0.2	0.2	○			0.04, 0.02
レモン	0.7	0.7				【EUレモン (全果) (0.08~0.41(#)(n=4))】
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.7				【EUレモン (全果) 参照】
グレープフルーツ	0.7	0.7				【EUレモン (全果) 参照】
ライム	0.7	0.7				【EUレモン (全果) 参照】
その他のかんきつ類果実	0.7	0.7				【EUレモン (全果) 参照】
りんご	0.2	0.2				【EURりんご (<0.02, <0.02)】
日本なし	0.2	0.2				
西洋なし	0.2	0.2				
マルメロ	0.2	0.2				
びわ	0.2	0.2				
もも	0.2	0.2				
ネクタリン	0.2	0.2				
あんず (アプリコットを含む。)	0.2	0.2				
すもも (プルーンを含む。)	0.2	0.2				
おうとう (チェリーを含む。)	0.2	0.2				【米国おうとう (<0.05~0.30(n=4))】
いちご	7	7	○		10*: 米国	【2.2~4.1(#)(n=8)(米国)】
ラズベリー	0.2	0.2		0.2		
ブラックベリー	0.7	0.2			0.7: 米国	【米国ブラックベリー (0.34), 米国ボイゼンベリー (0.28), 米国ラズベリー (0.23, 0.25, 0.29, 0.53)】
ブルーベリー	2	2			2: 米国	【米国ブルーベリー (0.05~1.59(#)(n=7))】
その他のベリー類果実	0.7	0.2			0.7: 米国	【米国ブラックベリー, 米国ボイゼンベリー, 米国ラズベリー参照】
ぶどう	1	1	○	1		
アボカド	0.2	0.2		0.2		
パッションフルーツ		0.2				
ひまわりの種子	0.05	0.05		0.05		
綿実	0.05	0.05		0.05		
アーモンド	0.4	0.4			0.5*: 米国	【米国アーモンド (<0.05(#), 0.21(#), 0.25(#)(n=3))】
くるみ	0.4	0.4			0.5*: 米国	【米国クルミ (<0.05(#), <0.05(#), 0.08(#)(n=3))】
カカオ豆	※0.2	0.2		0.2		
ホップ	10	10	○	10		

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
その他のスパイス	5	5	○	5		
その他のハーブ	2	2	○			
牛の筋肉	0.05	0.02				推:<0.05
豚の筋肉	0.05	0.02				(牛の筋肉参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.05	0.02				(牛の筋肉参照)
牛の脂肪	0.05	0.02				推:<0.05
豚の脂肪	0.05	0.02				(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.05	0.02				(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.3	0.1				推:0.22
豚の肝臓	0.3	0.1				(牛の肝臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3	0.1				(牛の肝臓参照)
牛の腎臓	0.7	0.3				推:0.67
豚の腎臓	0.7	0.3				(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.7	0.3				(牛の腎臓参照)
牛の食用部分	0.7	0.02				(牛の腎臓参照)
豚の食用部分	0.7	0.02				(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.7	0.02				(牛の腎臓参照)
乳	0.01					推:<0.01
鶏の筋肉	0.05	0.01				推:<0.05
その他の家さんの筋肉	0.05	0.01				(鶏の筋肉参照)
鶏の脂肪	0.05	0.01				推<0.05
その他の家さんの脂肪	0.05	0.01				(鶏の脂肪参照)
鶏の肝臓	0.1	0.06				推:<0.1
その他の家さんの肝臓	0.1	0.06				(鶏の肝臓参照)
鶏の腎臓	0.1	0.2				(鶏の肝臓参照)
その他の家さんの腎臓	0.1	0.2				(鶏の肝臓参照)
鶏の食用部分	0.1	0.01				(鶏の肝臓参照)
その他の家さんの食用部分	0.1	0.01				(鶏の肝臓参照)
鶏の卵	0.05	0.01				推:<0.05
その他の家さんの卵	0.05	0.01				(鶏の卵参照)
魚介類	0.1	0.1				推:0.098
とうがらし(乾燥させたもの)		10		10		
乾燥させたその他のスパイス(種子に限る。)		5		5		

申請(国内における登録、承認等の申請、インポート・トランス申請)以外の理由により本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

「登録有無」の欄に「○」の記載があるものは、国内で農薬等としての使用が認められていることを示している。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、国内で農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

「登録有無」の欄に「IT」の記載があるものは、インポート・トランス申請に基づく基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、登録又は申請の適用の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留濃度であることを示している。

畜産物の基準値案及び推定残留濃度はメタラキシル及び加水分解により2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物をメタラキシルに換算したものの和としての濃度で示している。

※)カカオ豆の基準値については、外皮を含まないものに適用する。

「外国基準値」欄に「\*印」の記載のあるものは、基準値を設定する際に、米国のメタラキシルの基準を参照した箇所、代謝物が含まれている。

\* 植物体内運命試験成績から親化合物と2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物の合計に対する親化合物の推定最大割合の1/1.5≒0.7を換算係数とし、一律基準を超える農産物について下2桁目を切り上げて基準値を設定した。

※)加工食品であるとうがらし(乾燥させたもの)について、国際基準が設定されているが、濃縮係数を用いて原材料中の濃度に換算した値が当該原材料の基準値を超えないことから、基準値を設定しないこととする。基準値が設定されていない加工食品については、原材料の基準値に基づき、加工係数を考慮して適否を判断することとしている。なお、本物質について、JMPRIはとうがらし(乾燥させたもの)の濃縮係数を10とし

※) 乾燥させたその他のスパイス(種子に限る)は、その他のスパイスの基準値に統合した。

メタラキシル及びメフェノキサム推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米 (玄米をいう。)	0.1	16.4	8.6	10.5	18.0
小麦	0.05	3.0	2.2	3.5	2.5
大麦	0.05	0.3	0.2	0.4	0.2
ライ麦	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.2	0.3	0.3	0.2
そば	0.05	0.1	0.0	0.1	0.1
その他の穀類	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.05	2.0	1.0	1.6	2.3
小豆類	0.2	0.5	0.2	0.2	0.8
えんどう	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
らっかせい	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他の豆類	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.3	11.5	10.2	12.6	10.5
やまいも (長いものをいう。)	0.4	1.2	0.4	0.7	1.8
こんにゃくいも	0.3	0.4	0.1	0.2	0.4
てんさい	0.05	1.6	1.4	2.1	1.7
さとうきび	0.05	4.9	4.2	6.2	5.0
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の根	0.2	6.6	2.3	4.1	9.1
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の葉	2	3.4	1.2	6.2	5.6
かぶ類の根	0.3	0.8	0.2	0.0	1.5
かぶ類の葉	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2
西洋わさび	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.3	5.3	1.5	5.0	6.5
キャベツ	0.5	12.1	5.8	9.5	11.9
芽キャベツ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
こまつな	1	5.0	1.8	6.4	6.4
きょうな	3	6.6	1.2	4.2	8.1
チンゲンサイ	2	3.6	1.4	3.6	3.8
カリフラワー	0.5	0.3	0.1	0.1	0.3
ブロッコリー	0.5	2.6	1.7	2.8	2.9
その他のあぶらな科野菜	0.7	2.4	0.4	0.6	3.4
ごぼう	0.05	0.2	0.1	0.2	0.2
しゅんぎく	4	6.0	1.2	10.4	10.0
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	2	19.2	8.8	22.8	18.4
その他のきく科野菜	4	6.0	0.4	2.4	10.4
たまねぎ	2	62.4	45.2	70.6	55.6
ねぎ (リーキを含む。)	0.2	1.9	0.7	1.4	2.1
だんにく	3	1.2	0.3	3.0	1.5
アスパラガス	0.2	0.3	0.1	0.2	0.5
わけぎ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のゆり科野菜	0.3	0.2	0.0	0.1	0.4
にんじん	0.4	7.5	5.6	9.0	7.5
パセリ	2	0.2	0.2	0.2	0.4
セロリ	4	4.8	2.4	1.2	4.8
みつば	2	0.8	0.2	0.2	1.0
その他のせり科野菜	1	0.2	0.1	0.3	0.3
トマト	2	64.2	38.0	64.0	73.2
ピーマン	2	9.6	4.4	15.2	9.8
なす	1	12.0	2.1	10.0	17.1
その他のなす科野菜	1	1.1	0.1	1.2	1.2
きゅうり (ガーキンを含む。)	1	20.7	9.6	14.2	25.6
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	0.2	1.9	0.7	1.6	2.6
すいか	0.1	0.8	0.6	1.4	1.1



メタラキシル及びメフェノキサム推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
メロン類果実	0.7	2.5	1.9	3.1	2.9
ほうれんそう	2	25.6	11.8	28.4	34.8
オクラ	1	1.4	1.1	1.4	1.7
しょうが	1	1.5	0.3	1.1	1.7
未成熟えんどう	0.2	0.3	0.1	0.0	0.5
未成熟いんげん	0.2	0.5	0.2	0.0	0.6
えだまめ	0.2	0.3	0.2	0.1	0.5
その他の野菜	3	40.2	18.9	30.3	42.3
みかん	0.2	3.6	3.3	0.1	5.2
レモン	0.7	0.4	0.1	0.1	0.4
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.7	4.9	10.2	8.8	2.9
グレープフルーツ	0.7	2.9	1.6	6.2	2.5
ライム	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	0.7	4.1	1.9	1.8	6.7
りんご	0.2	4.8	6.2	3.8	6.5
日本なし	0.2	1.3	0.7	1.8	1.6
西洋なし	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
マルメロ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
びわ	0.2	0.1	0.1	0.4	0.1
もも	0.2	0.7	0.7	1.1	0.9
ネクタリン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
あんず (アブリコットを含む。)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1
すもも (プルーンを含む。)	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2
おうとう (チェリーを含む。)	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
いちご	7	37.8	54.6	36.4	41.3
ラズベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
ブルーベリー	2	2.2	1.4	1.0	2.8
その他のベリー類果実	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
ぶどう	1	8.7	8.2	20.2	9.0
アボカド	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
ひまわりの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
綿実	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1
カカオ豆	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0
ホップ	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス	5	0.5	0.5	0.5	1.0
その他のハーブ	2	1.8	0.6	0.2	2.8
陸棲哺乳類の肉類	0.05	2.9	2.2	3.2	2.1
陸棲哺乳類の食用部分 (肉類除く)	0.7	1.0	0.6	3.4	0.6
家さんの肉類	0.1	2.1	1.5	2.3	1.6
家さんの卵類	0.05	2.1	1.7	2.4	1.9
魚介類	0.1	9.3	4.0	5.3	11.5
計		480.2	307.0	479.1	537.5
ADI比 (%)		10.9	23.3	10.2	12.0

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

TMDI試算値: 基準値案×各食品の平均摂取量

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI計算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じた。

メタラキシル及びメフェノキサムの推定摂取量（短期）：国民全体(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ( $\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/day)	ESTI/ARFD (%)
米 (玄米)	米	0.1	○ 0.015	0.1	0
小麦	小麦	0.05	0.05	0.1	0
大麦	大麦	0.05	0.05	0.0	0
	麦茶	0.05	0.05	0.0	0
とうもろこし	スイートコーン	0.05	0.05	0.6	0
そば	そば	0.05	0.05	0.1	0
大豆	大豆	0.05	0.05	0.0	0
小豆類	いんげん	0.2	○ 0.04	0.1	0
らっかせい	らっかせい	0.1	0.1	0.1	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.3	0.3	2.8	1
やまいも (長いもをいう。)	やまいも	0.4	○ 0.154	1.3	0
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	だいこんの根	0.2	0.2	2.3	0
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	だいこんの葉	2	2	16.5	3
かぶ類の根	かぶの根	0.3	0.3	2.2	0
かぶ類の葉	かぶの葉	0.3	0.3	0.8	0
はくさい	はくさい	0.3	0.3	3.9	1
キャベツ	キャベツ	0.5	0.5	4.8	1
こまつな	こまつな	1	1	4.2	1
きょうな	きょうな	3	3	10.0	2
チンゲンサイ	チンゲンサイ	2	2	14.8	3
カリフラワー	カリフラワー	0.5	0.5	3.7	1
ブロッコリー	ブロッコリー	0.5	0.5	3.0	1
その他のあぶらな科野菜	たかな	0.7	0.7	5.5	1
	菜花	0.7	0.7	1.9	0
ごぼう	ごぼう	0.05	0.05	0.2	0
しゅんぎく	しゅんぎく	4	○ 3.01	9.8	2
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	レタス類	2	○ 0.5	2.8	1
	非結球レタス類	2	○ 0.5	2.0	0
	レタス	2	○ 0.5	2.9	1
たまねぎ	たまねぎ	2	○ 0.03	0.2	0
ねぎ (リーキを含む。)	ねぎ	0.2	0.2	0.8	0
にんにく	にんにく	3	○ 1.218	0.8	0
アスパラガス	アスパラガス	0.2	0.2	0.4	0
わけぎ	わけぎ	0.2	0.2	0.4	0
その他のゆり科野菜	にんにくの芽	0.3	0.3	0.5	0
	らっきょう	0.3	0.3	0.3	0
にんじん	にんじん	0.4	○ 0.154	0.7	0
	にんじんジュース	0.4	○ 0.09	0.6	0
パセリ	パセリ (生)	2	2	0.3	0
	パセリ (乾燥)	2	○ 0.48	0.4	0
セロリ	セロリ	4	○ 3.01	16.6	3
みつば	みつば	2	2	1.6	0
その他のせり科野菜	せり	1	1	1.6	0
トマト	トマト	2	2	21.9	4
ピーマン	ピーマン	2	○ 0.6	1.5	0
なす	なす	1	1	6.5	1
その他のなす科野菜	とうがらし (生)	1	1	1.6	0
	ししとう	1	1	1.0	0
きゅうり (ガーキンを含む。)	きゅうり	1	1	6.3	1
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	かぼちゃ	0.2	0.2	2.0	0
	ズッキーニ	0.2	0.2	1.4	0
すいか	すいか	0.1	0.1	3.3	1
メロン類果実	メロン	0.7	0.7	11.9	2
ほうれんそう	ほうれんそう	2	○ 0.1	0.5	0
オクラ	オクラ	1	1	1.5	0
しょうが	しょうが	1	1	0.9	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう (さや)	0.2	○ 0.17	0.3	0
	未成熟えんどう (豆)	0.2	○ 0.17	0.3	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	0.2	○ 0.17	0.3	0
えだまめ	えだまめ	0.2	○ 0.17	0.4	0
その他の野菜	ずいき	3	3	30.4	6
	もやし	3	3	6.9	1
	れんこん	3	3	18.7	4
	そら豆 (生)	3	3	8.8	2
みかん	みかん	0.2	0.2	1.9	0
レモン	レモン	0.7	○ 0.41	0.9	0
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	オレンジ	0.7	○ 0.41	3.9	1
	オレンジ果汁	0.7	○ 0.278	2.8	1
グレープフルーツ	グレープフルーツ	0.7	0.7	12.0	2

## メタラキシル及びメフェノキサムの推定摂取量（短期）：国民全体(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ( $\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/day)	ESTI/ARFD (%)
その他のかんきつ類果実	きんかん	0.7	0.7	1.7	0
	ほんかん	0.7	0.7	7.4	1
	ゆず	0.7	0.7	1.1	0
	すだち	0.7	0.7	1.1	0
りんご	りんご	0.2	0.2	2.9	1
	りんご果汁	0.2	○ 0.2	2.1	0
日本なし	日本なし	0.2	0.2	3.0	1
西洋なし	西洋なし	0.2	0.2	2.8	1
びわ	びわ	0.2	0.2	1.4	0
もも	もも	0.2	0.2	2.7	1
すもも (ブルーンを含む。)	ブルーン	0.2	0.2	1.2	0
おうとう (チェリーを含む。)	おうとう	0.2	○ 0.2	0.5	0
いちご	いちご	7	○ 2.87	10.9	2
ブルーベリー	ブルーベリー	2	2	2.9	1
ぶどう	ぶどう	1	1	13.5	3
アボカド	アボカド	0.2	0.2	1.4	0

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARFD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用いて短期摂取量を推計した。

小豆類、やまいも、しゅんぎく、にんにく、にんじん、セロリ、おうとう、いちごの暴露評価には、基準値の設定に用いた米国の作物残留試験の結果が代謝物を含むことから、最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）に換算係数0.7を乗じた値を用いた。

## メタラキシル及びメフェノキサムの推定摂取量（短期）：幼小児（1～6歳）

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ( $\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重 /day)	ESTI/ARfD (%)
米（玄米）	米	0.1	○ 0.015	0.2	0
小麦	小麦	0.05	0.05	0.1	0
大麦	大麦	0.05	0.05	0.0	0
	麦茶	0.05	0.05	0.1	0
とうもろこし	スイートコーン	0.05	0.05	1.2	0
大豆	大豆	0.05	0.05	0.1	0
らっかせい	らっかせい	0.1	0.1	0.1	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.3	0.3	6.8	1
やまいも（長いもをいう。）	やまいも	0.4	○ 0.154	2.1	0
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	だいこんの根	0.2	0.2	4.4	1
はくさい	はくさい	0.3	0.3	4.7	1
キャベツ	キャベツ	0.5	0.5	7.8	2
こまつな	こまつな	1	1	8.9	2
ブロッコリー	ブロッコリー	0.5	0.5	7.2	1
ごぼう	ごぼう	0.05	0.05	0.3	0
レタス（サラダ菜及びちしゃを含む。）	レタス類	2	○ 0.5	4.9	1
	非結球レタス類	2	○ 0.5	7.0	1
	レタス	2	○ 0.5	4.4	1
たまねぎ	たまねぎ	2	○ 0.03	0.5	0
ねぎ（リーキを含む。）	ねぎ	0.2	0.2	1.3	0
にんにく	にんにく	3	○ 1.218	0.9	0
にんじん	にんじん	0.4	○ 0.154	1.6	0
パセリ	パセリ（生）	2	2	0.3	0
トマト	トマト	2	2	54.3	10
ピーマン	ピーマン	2	○ 0.6	3.9	1
なす	なす	1	1	15.6	3
きゅうり（ガーキンを含む。）	きゅうり	1	1	14.6	3
かぼちゃ（スカッシュを含む。）	かぼちゃ	0.2	0.2	3.2	1
すいか	すいか	0.1	0.1	8.7	2
メロン類果実	メロン	0.7	0.7	20.5	4
ほうれんそう	ほうれんそう	2	○ 0.1	1.1	0
オクラ	オクラ	1	1	4.3	1
しょうが	しょうが	1	1	1.5	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう（さや）	0.2	○ 0.17	0.2	0
	未成熟えんどう（豆）	0.2	○ 0.17	0.3	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	0.2	○ 0.17	0.7	0
えだまめ	えだまめ	0.2	○ 0.17	0.5	0
その他の野菜	もやし	3	3	12.6	3
	れんこん	3	3	30.8	6
みかん	みかん	0.2	0.2	5.5	1
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	オレンジ	0.7	○ 0.41	11.0	2
	オレンジ果汁	0.7	○ 0.278	5.0	1
りんご	りんご	0.2	0.2	6.4	1
	りんご果汁	0.2	○ 0.2	6.7	1
日本なし	日本なし	0.2	0.2	5.8	1
もも	もも	0.2	0.2	8.5	2
いちご	いちご	7	○ 2.87	31.0	6
ぶどう	ぶどう	1	1	30.6	6

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARfD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用いて短期摂取量を推計した。

小豆類、やまいも、しゅんぎく、にんにく、にんじん、セロリ、おうとう、いちごの暴露評価には、基準値の設定に用いた米国の作物残留試験の結果が代謝物を含むことから、最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）に換算係数0.7を乗じた値を用いた。

(参考)

これまでの経緯

昭和59年	2月	3日	メタラキシル（ラセミ体制剤）初回農薬登録
平成17年	11月	29日	残留農薬基準告示
平成19年	5月	10日	農林水産省から厚生労働省へメタラキシルMの農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（新規：ピーマン、みょうが等）
平成19年	5月	22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	3月	5日	食品安全委員会から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年	8月	11日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成21年	9月	25日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成22年	8月	10日	残留農薬基準告示
平成22年	8月	5日	農林水産省から厚生労働省へ基準値設定依頼（魚介類）
平成22年	9月	9日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成22年	12月	20日	インポートトレランス設定の要請（しゅんぎく、セロリ等）
平成23年	7月	7日	食品安全委員会から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成23年	11月	18日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成23年	11月	29日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成24年	7月	25日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成24年	11月	2日	残留農薬基準告示
平成24年	8月	30日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：ごぼう及びだいこん類の葉）
平成26年	11月	11日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成26年	1月	20日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成26年	7月	30日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成26年	7月	31日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成27年	2月	20日	残留基準告示
平成28年	12月	13日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：アスパラガス）

平成29年 2月15日 インポートトレランス設定の要請（にんにく）  
 平成29年 3月15日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請  
 平成29年10月17日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知  
 平成30年 5月 8日 薬事・食品衛生審議会へ諮問  
 平成30年 5月 9日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

○ 穂山 浩 国立医薬品食品衛生研究所食品部長  
 石井 里枝 埼玉県衛生研究所副所長(兼)食品微生物検査室長  
 井之上 浩一 立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室准教授  
 折戸 謙介 麻布大学獣医学部生理学教授  
 魏 民 大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学准教授  
 佐々木 一昭 東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授  
 佐藤 清 元 一般財団法人残留農薬研究所理事  
 佐野 元彦 東京海洋大学海洋生物資源学部門教授  
 永山 敏廣 明治薬科大学薬学部特任教授  
 根本 了 国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長  
 二村 睦子 日本生活協同組合連合会組織推進本部長  
 宮井 俊一 一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問  
 由田 克士 大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授  
 吉成 浩一 静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野教授

(○：部会長)

答申(案)

メタラキシル及びメフェノキサム

食品名	残留基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.1	今回基準値を設定するメタラキシル及びメフェノキサムとは、農産物及び魚介類にあつてはメタラキシル
小麦 大麦 ライ麦 とうもろこし そば その他の穀類 <sup>注1)</sup>	0.05 0.05 0.05 0.05 0.05 0.05	(メタラキシルMを含む)をいい、畜産物においてはメタラキシル(メタラキシルMを含む)及び加水分解により2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物をメタラキシルに換算したものの和をいう。なお、メフェノキサムは、メタラキシルMの別名である。
大豆 小豆類 <sup>注2)</sup> えんどう らっかせい その他の豆類 <sup>注3)</sup>	0.05 0.2 0.2 0.1 0.2	注1)「その他の穀類」とは、穀類のうち、米、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。 注2)いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホホワイト豆、ライマ豆及びレンズを含む。
ばれいしょ やまいも(長いもをいう。) こんにやくいも	0.3 0.4 0.3	注3)「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。
てんさい さとうきび	0.05 0.05	
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根 だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉 かぶ類の根 かぶ類の葉 西洋わさび はくさい キャベツ 芽キャベツ こまつな きょうな チンゲンサイ カリフラワー ブロッコリー その他のあぶらな科野菜 <sup>注4)</sup>	0.2 2 0.3 0.3 0.2 0.3 0.5 0.2 1 3 2 0.5 0.5 0.7	注4)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
ごぼう しゅんぎく レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。) その他のきく科野菜 <sup>注5)</sup>	0.05 4 2 4	注5)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。
たまねぎ ねぎ(リーキを含む。) にんにく アスパラガス わけぎ その他のゆり科野菜 <sup>注6)</sup>	2 0.2 3 0.2 0.2 0.3	注6)「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。
にんじん パセリ セロリ みつば その他のせり科野菜 <sup>注7)</sup>	0.4 2 4 2 1	注7)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

食品名	残留基準値	
	ppm	
トマト	2	
ピーマン	2	
なす	1	注8)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
その他のなす科野菜 <sup>注8)</sup>	1	
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.2	
すいか	0.1	
メロン類果実	0.7	
ほうれんそう	2	
オクラ	1	
しょうが	1	
未成熟えんどう	0.2	注9)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
未成熟いんげん	0.2	
えだまめ	0.2	
その他の野菜 <sup>注9)</sup>	3	
みかん	0.2	注10)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
レモン	0.7	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	
グレープフルーツ	0.7	
ライム	0.7	
その他のかんきつ類果実 <sup>注10)</sup>	0.7	
りんご	0.2	
日本なし	0.2	
西洋なし	0.2	
マルメロ	0.2	
びわ	0.2	
もも	0.2	
ネクタリン	0.2	
あんず(アプリコットを含む。)	0.2	
すもも(プルーンを含む。)	0.2	
おうとう(チェリーを含む。)	0.2	
いちご	7	注11)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。
ラズベリー	0.2	
ブラックベリー	0.7	
ブルーベリー	2	
その他のベリー類果実 <sup>注11)</sup>	0.7	
ぶどう	1	
アボカド	0.2	
ひまわりの種子	0.05	
綿実	0.05	
アーモンド	0.4	注12)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。
くるみ	0.4	
カカオ豆	0.2	注13)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。
ホップ	10	
その他のスパイス <sup>注12)</sup>	5	
その他のハーブ <sup>注13)</sup>	2	
牛の筋肉	0.05	



食品名	残留基準値
	ppm
豚の筋肉	0.05
その他の陸棲哺乳類に属する動物 <sup>注14)</sup> の筋肉	0.05
牛の脂肪	0.05
豚の脂肪	0.05
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.05
牛の肝臓	0.3
豚の肝臓	0.3
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.3
牛の腎臓	0.7
豚の腎臓	0.7
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.7
牛の食用部分 <sup>注15)</sup>	0.7
豚の食用部分	0.7
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.7
乳	0.01
鶏の筋肉	0.05
その他の家きん <sup>注16)</sup> の筋肉	0.05
鶏の脂肪	0.05
その他の家きんの脂肪	0.05
鶏の肝臓	0.1
その他の家きんの肝臓	0.1
鶏の腎臓	0.1
その他の家きんの腎臓	0.1
鶏の食用部分	0.1
その他の家きんの食用部分 <sup>注15)</sup>	0.1
鶏の卵	0.05
その他の家きんの卵	0.05
魚介類	0.1

注14)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

注15)「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。

注16)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。